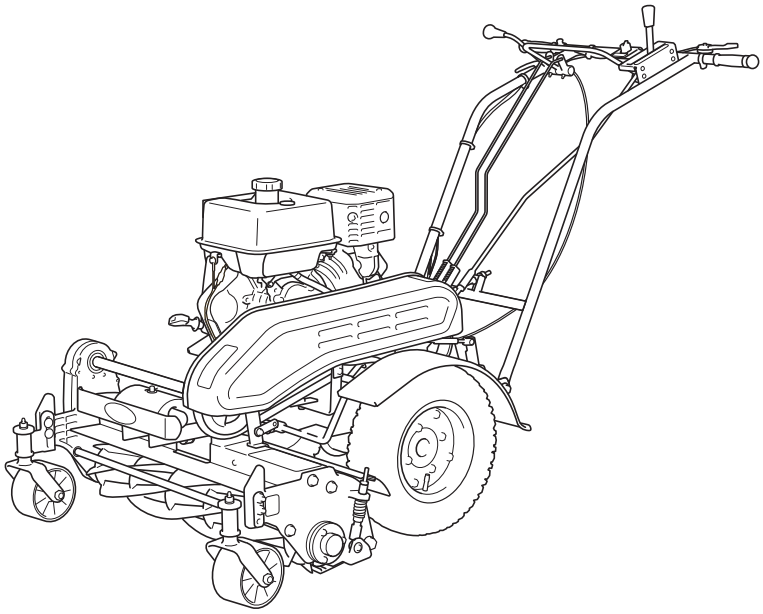
LM81A・LM81TA

リールモア

取扱説明書



Serial No.　LM81A：20016-・LM81TA：20016-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS®
Quality on Demand

Ver.1.1

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

はじめに

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社にお問い合わせください。

お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しください。

株式会社　共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

696cq5-001	危険警告記号

この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。

いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。

これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。

危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。

警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。

注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。

重要

製品の構造などの注意点を示しています。

はじめに

使用上の注意

⚠ 注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- バロネス製品の取扱説明書
- エンジンの取扱説明書

使用目的

この製品は、ゴルフ場や公園などの芝草刈り作業を目的とした機械です。
この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。
この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。
また、この製品は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

目次

安全 .....Page 1-1

安全上の注意事項 ..... Page 1-2

廃棄 .....Page 2-1

リサイクルおよび廃棄処分 .....Page 2-2

製品概要 .....Page 3-1

仕様 .....Page 3-2
各部の名称 .....Page 3-3
警告ラベルと指示ラベル ..... Page 3-4

取り扱い説明 ..... Page 4-1

使用前の準備 ..... Page 4-2
使用前の点検 ..... Page 4-4
締め付けトルク .....Page 4-10
使用前の調整 ..... Page 4-13
エンジン始動・停止方法 ..... Page 4-15
各部の操作方法 .....Page 4-18
移動 .....Page 4-24
刈り込み ..... Page 4-24
運搬 .....Page 4-25

メンテナンス ..... Page 5-1

メンテナンス上の注意 .....Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢 .....Page 5-2
メンテナンススケジュール .....Page 5-3
グリースアップ .....Page 5-6
ジャッキアップ .....Page 5-8
メンテナンスの方法 ..... Page 5-8
長期保管 ..... Page 5-23

目次

安全

安全上の注意事項 ..... Page 1-2

トレーニング ..... Page 1-2
運転の前に ..... Page 1-2
運転操作 ..... Page 1-2
保守と保管 ..... Page 1-4

安全

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転や検査を重ねた上で出荷しております。
事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。
この製品を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。
以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
   各部の操作方法や警告ラベル、本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
   トレーニングはオーナーの責任です。
4. 正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。
   地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。
   メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。
   長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。
   また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

〔1〕燃料は専用の容器に保管する。
〔2〕給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
〔3〕給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。
喫煙しない。
〔4〕燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
〔5〕燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。

6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
   これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. マフラーが破損したら必ず交換してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。

3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
4. 本書の指示に従い、刃から足を十分離した状態でエンジンを始動させてください。
5. できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
6. 傾斜地では常に足元に注意してください。
7. 走らないでください。
8. 「安全な斜面」はありません。
   芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。
   転倒を防ぐために
   〔1〕極端に急な傾斜地では作業をしない。
   〔2〕斜面では急停止、急発進しない。
   〔3〕走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
   また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
   〔4〕斜面の走行や旋回は低速で行う。
9. グラスキャッチャーや他の作業機を使用して機械を操作しているときは、特別な注意を払ってください。
   それらは機械の安定性に影響することがあります。
10. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のままで運転しないでください。
11. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
    エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
12. 高温部に触れないように注意してください。
13. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
    〔1〕平らな場所に停止する。
    〔2〕作業部と走行の駆動を遮断する。
    〔3〕走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかける。
    〔4〕エンジンを止める。
14. 以下のような状況になった場合には、エンジンを止めてください。
    〔1〕燃料を給油するとき。
    〔2〕グラスキャッチャーを取り外すとき。
    〔3〕刈高を調整するとき。
    ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
    〔4〕詰まりを取り除くとき。
    〔5〕機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
    〔6〕機械を離れるとき。
    〔7〕機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
    機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
15. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
16. エンジン作動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
17. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
18. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
19. 旋回するとき、道路を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
20. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
21. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
22. 作業機を使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けないようにしてください。
    また作業中は機械に人を近づけないでください。
23. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
24. 本機をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
    積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
    トラックやトレーラーに積載して移動するときは、本機の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
    あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
25. 本機を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
26. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
27. わき見運転、手放し運転はしないでください。
28. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。
    燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
29. 落雷のおそれがあるときは、作業を中断して機械から離れてください。

安全

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業部の駆動を遮断し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、念のために点火プラグからワイヤーを抜いてください。
   また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 火災防止のため、エンジンやマフラー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
   オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
3. 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
4. 本機にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
5. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
6. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
7. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
8. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
9. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
10. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
11. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
13. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
14. リールカッターとベッドナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。
    〔1〕必ず手袋を着用してください。
    〔2〕刃合わせ調整中は、リールカッターとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
15. 可動部に手足を近づけないでください。
    エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
16. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
    消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
17. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
18. グラスキャッチャーの磨耗や劣化を、こまめに点検してください。
19. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。

廃棄

リサイクルおよび廃棄処分 .....Page 2-2

リサイクルについて ..... Page 2-2
廃棄処分について .....Page 2-2

廃棄

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
（例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など）

製品概要

仕様 .....Page 3-2

仕様表 .....Page 3-2

各部の名称 .....Page 3-3

機番プレート .....Page 3-4

警告ラベルと指示ラベル ..... Page 3-4

警告ラベルと指示ラベルについて .....Page 3-4
警告ラベル・指示ラベル貼付位置 .....Page 3-4
警告ラベル・指示ラベルの説明 ..... Page 3-5

仕様

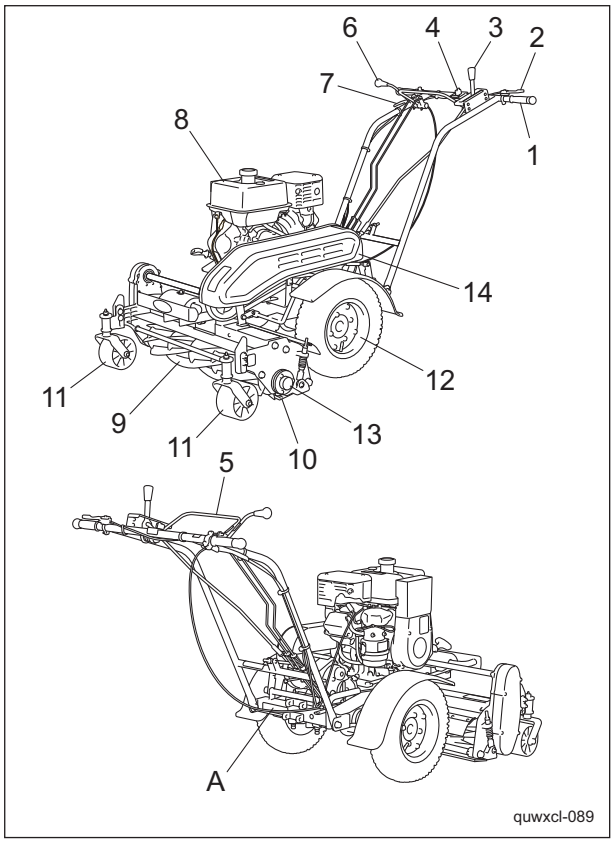
仕様表

型式			LM81A	LM81TA
寸法	全長		172 cm	←
	全幅		94 cm	←
	全高		112 cm	←
質量	本体（燃料タンク空）	グラスキャッチャー無	160 kg	166 kg
	グラスキャッチャー		-	5 kg
最小回転半径			-	←
エンジン	型式		三菱 GB290LN	←
	種類		空冷 4 サイクル傾斜形横軸 OHV ガソリンエンジン	←
	総排気量		296 cm^3（0.296 L）	←
	最大出力		5.8 kW（8.0 PS）/2,000 rpm	←
燃料タンク容量			ガソリン 6.0 dm^3（6.0 L）	←
燃料消費率			320 g/kW・h（定格出力時）	←
エンジンオイル容量			1.0 dm^3（1.0 L）	←
作業幅（刈幅）			77 cm	←
作業範囲（刈高）			10.0 - 50.0 mm	5.0 - 45.0 mm
リール刃数			5 枚	7 枚
駆動方式	走行		メカ切り替え方式	←
	作業部		メカ式	←
速さ（HST）			-	←
速さ（メカ）	前進	1 速	4.8 km/h	←
		2 速	7.2 km/h	←
	後進		3.6 km/h	←
能率			2,957 m^2/h（4.8 km/h x 刈幅 x 0.8）	←
使用最大傾斜角度			-	←
タイヤサイズ			4.80/4.00-8	←
タイヤ空気圧			120 kPa（1.2 kgf/cm^2）	←
バッテリー			-	←

出荷時のエンジン最高回転速度は、1,850 rpm

各部の名称

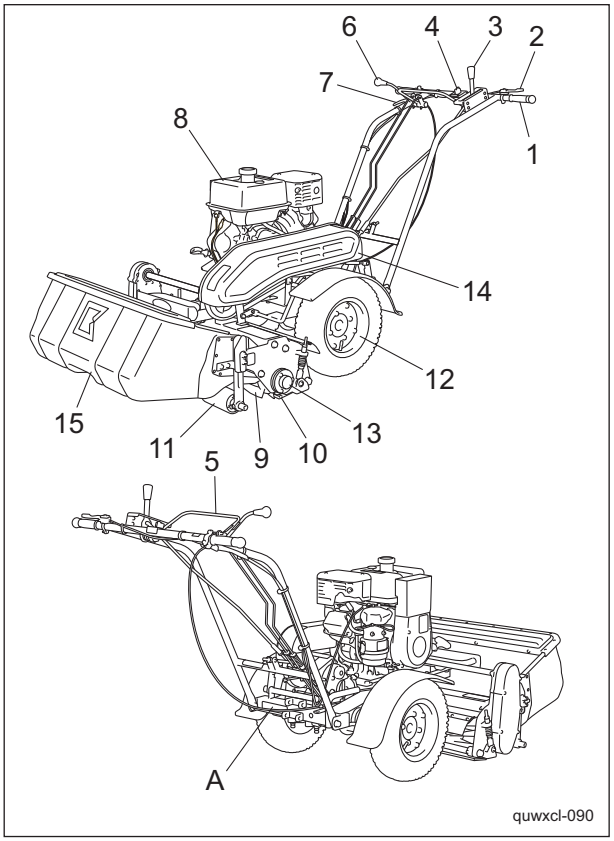
LM81A



各部の名称_001

1	ハンドル
2	スロットルレバー
3	チェンジレバー
4	エンジンスイッチ
5	走行クラッチレバー
6	リールクラッチレバー
7	ブレーキレバー
8	エンジン
9	リールカッター
10	ベッドナイフ
11	前車輪
12	タイヤ
13	リール軸カバー
14	ベルトカバー
A	機番プレート

LM81TA



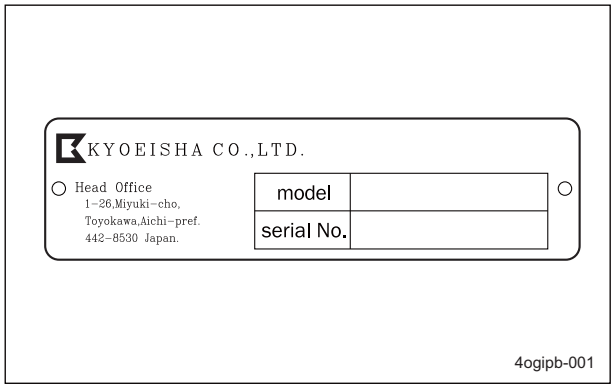
各部の名称_002

1	ハンドル
2	スロットルレバー
3	チェンジレバー
4	エンジンスイッチ
5	走行クラッチレバー
6	リールクラッチレバー
7	ブレーキレバー
8	エンジン
9	リールカッター
10	ベッドナイフ
11	前ローラー
12	タイヤ
13	リール軸カバー
14	ベルトカバー
15	グラスキャッチャー
A	機番プレート

製品概要

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

警告ラベルと指示ラベル

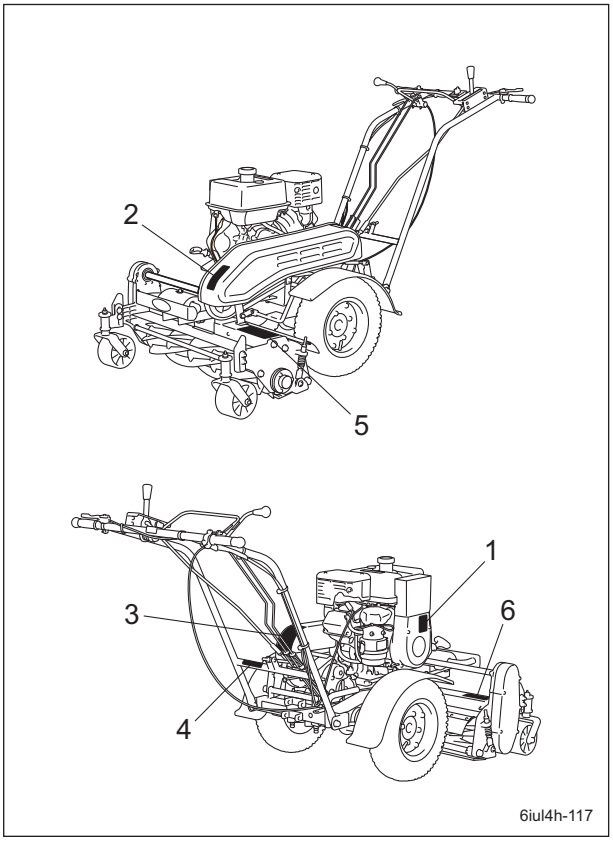
警告ラベルと指示ラベルについて

重要

この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。
購入販売店または弊社に注文してください。

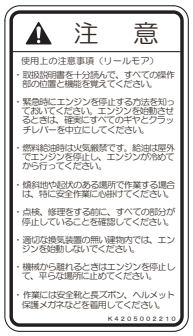
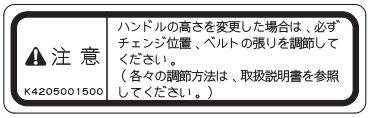
警告ラベル・指示ラベル貼付位置

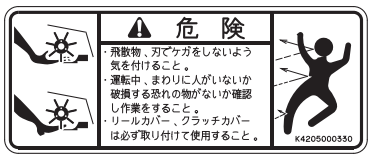


警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001

1	指示プレート
2	ベルト回転物注意マーク
3	リールモア注意マーク
4	ハンドル調節注意マーク
5	リールモア危険マーク
6	ジョイント・回転物注意マーク

警告ラベル・指示ラベルの説明

1	 qigqnx-127	K4205000540 指示プレート オーバーヒート防止の注意事項について記載されています。
2	 qigqnx-005	K4205000670 ベルト回転物注意マーク 注意 回転物注意-エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。
3	 qigqnx-138	K4205002210 リールモア注意マーク 使用上の注意事項（リールモア）について記載されています。
4	 qigqnx-139	K4205001500 ハンドル調節注意マーク ハンドルの高さを変更した場合の注意事項について記載されています。

5	 qigqnx-140	K4205000330 リールモア危険マーク **⚠ 危険** 手足を切る - 刃が回転しているときは機械から離れてください。 飛散物 - 人を機械から遠ざけてください。
6	 qigqnx-006	K4205000810 ジョイント・回転物注意マーク **⚠ 注意** 回転物注意-エンジン回転中はジョイントや軸に手を近づけないでください。

使用前の準備 ..... Page 4-2

ハンドルの取り付け ..... Page 4-2
走行クラッチロッドの取り付け ..... Page 4-2
リールクラッチロッドの取り付け .....Page 4-2
チェンジ調節ロッドの取り付け ..... Page 4-3
スロットルワイヤーの取り付け ..... Page 4-3
ブレーキレバーの取り付け ..... Page 4-3
エンジンスイッチコードの接続 ..... Page 4-4
動作確認 ..... Page 4-4

使用前の点検 ..... Page 4-4

リールカッターとベッドナイフ ..... Page 4-4
カバー .....Page 4-4
ベルト .....Page 4-5
エアクリーナー ..... Page 4-5
エアークリーナーカバー .....Page 4-6
ローラー ..... Page 4-6
タイヤ .....Page 4-6
ブレーキ ..... Page 4-6
クラッチ ..... Page 4-6
ワイヤー ..... Page 4-6
エンジン ..... Page 4-6
エンジンオイル ..... Page 4-7
燃料 ..... Page 4-8
燃料ストレーナー .....Page 4-8
油漏れ .....Page 4-9

締め付けトルク .....Page 4-10

標準締め付けトルク ..... Page 4-10
重要締め付けトルク ..... Page 4-12

使用前の調整 ..... Page 4-13

ハンドルの調整 ..... Page 4-13
刃合わせ調整 .....Page 4-13
刈高の調整 .....Page 4-14
バーチカッターの調整 .....Page 4-14

エンジン始動・停止方法 ..... Page 4-15

エンジン始動・停止 ..... Page 4-15

各部の操作方法 .....Page 4-18

機械を離れるときの注意 .....Page 4-18
操作ラベルの説明 .....Page 4-18
エンジンスイッチ .....Page 4-21
スロットルレバー .....Page 4-21
ブレーキレバー ..... Page 4-21
走行クラッチレバー ..... Page 4-22
チェンジレバー ..... Page 4-22
リールクラッチレバー .....Page 4-23
風量調整板 .....Page 4-23
バランスウエイト .....Page 4-23

移動 .....Page 4-24

移動操作 ..... Page 4-24

刈り込み ..... Page 4-24

刈り込み操作 .....Page 4-24
グラスキャッチャーの脱着 ..... Page 4-24

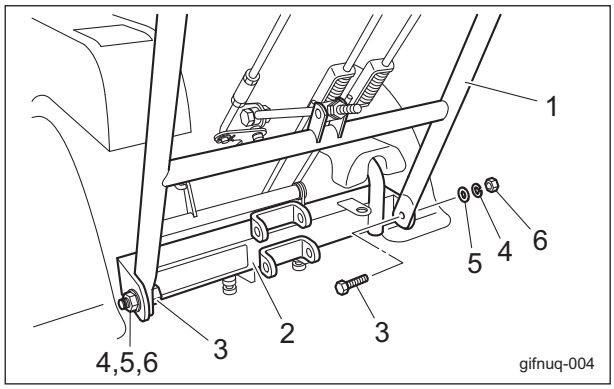
運搬 .....Page 4-25

運搬方法 ..... Page 4-25

使用前の準備

ハンドルの取り付け

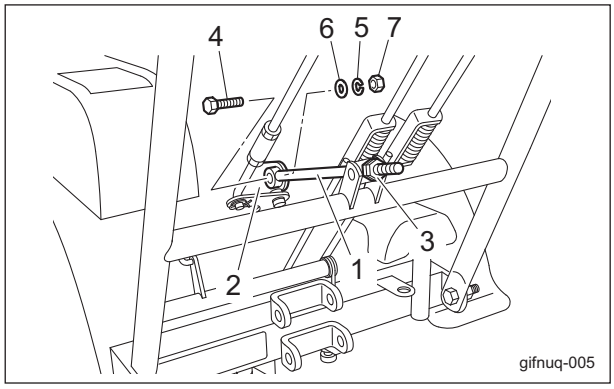
1. ハンドルを後フレームにボルト、S ワッシャー、ワッシャー、ナットで取り付けてください。



ハンドルの取り付け_001

1	ハンドル
2	後フレーム
3	ボルト
4	S ワッシャー
5	ワッシャー
6	ナット

2. ハンドル固定軸をフレームにナット A で取り付けてください。
3. ボルト、S ワッシャー、ワッシャー、ナット B を締め付け、ハンドル固定軸をチェンジ支点板に固定してください。



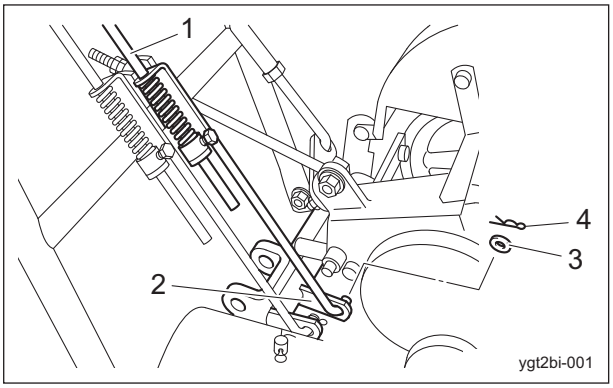
ハンドルの取り付け_002

1	ハンドル固定軸
2	チェンジ支点板
3	ナット A
4	ボルト
5	S ワッシャー
6	ワッシャー
7	ナット B

4. ハンドルの高さを調整してください。

走行クラッチロッドの取り付け

1. 走行クラッチロッドのロッドガイド部をテンションレバーの取り付け穴に差し込んでください。
2. ワッシャーとスナップピンを取り付けてください。

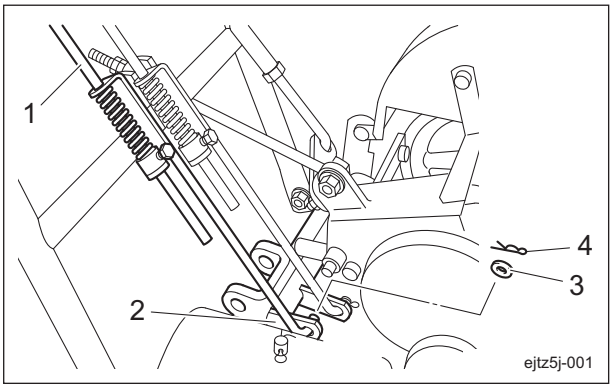


走行クラッチロッドの取り付け_001

1	走行クラッチロッド
2	テンションレバー
3	ワッシャー
4	スナップピン

リールクラッチロッドの取り付け

1. リールクラッチロッドのロッドガイド部をテンションレバーの取り付け穴に差し込んでください。
2. ワッシャーとスナップピンを取り付けてください。

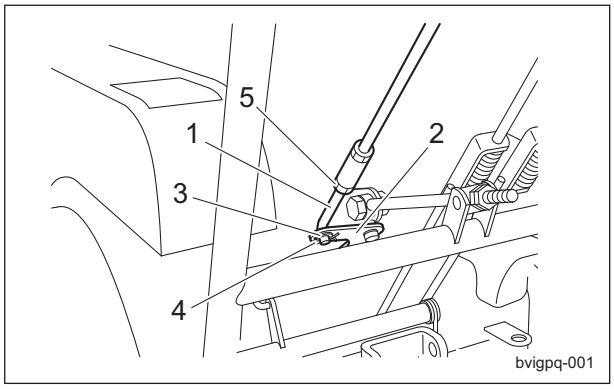


リールクラッチロッドの取り付け_001

1	リールクラッチロッド
2	テンションレバー
3	ワッシャー
4	スナップピン

チェンジ調節ロッドの取り付け

1. チェンジ調節ロッドをチェンジアイドルレバーの取り付け穴に差し込んでください。
2. ワッシャーとスナップピンを取り付けてください。

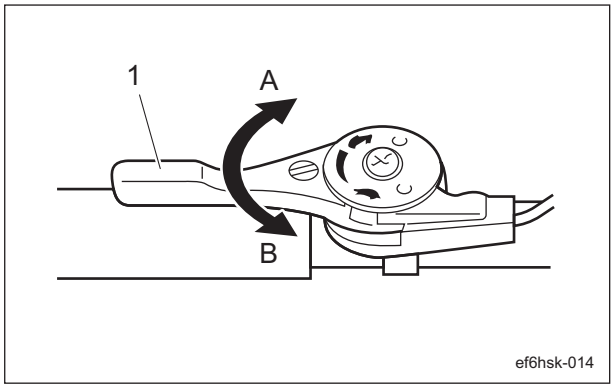


チェンジ調節ロッドの取り付け_001

1	チェンジ調節ロッド
2	チェンジアイドルレバー
3	ワッシャー
4	スナップピン
5	ロックナット

スロットルワイヤーの取り付け

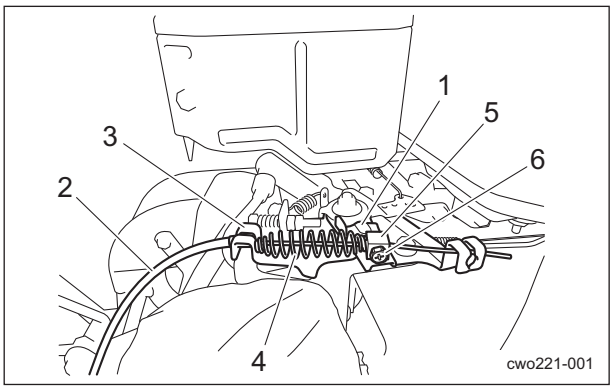
1. スロットルレバーを「低速」の位置にしてください。



スロットルワイヤーの取り付け_001

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

2. エンジン側のスロットルレバーを低速位置にしてください。
3. スロットルワイヤーをワイヤーブラケット、スプリング、ワイヤー止め金具に通してください。
4. ワイヤー止め金具のねじを締め付けてください。
5. ワイヤーブラケットをペンチなどでかしめてください。

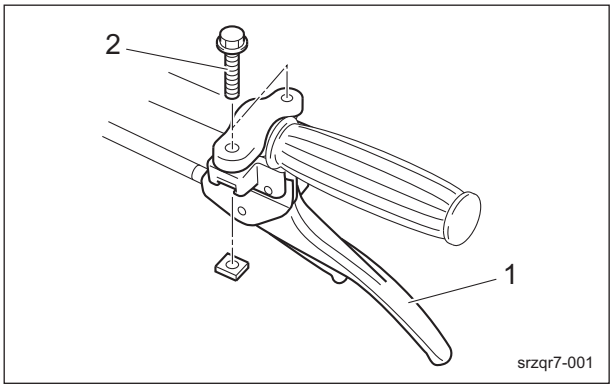


スロットルワイヤーの取り付け_002

1	スロットルレバー
2	スロットルワイヤー
3	ワイヤーブラケット
4	スプリング
5	ワイヤー止め金具
6	ねじ

ブレーキレバーの取り付け

1. ブレーキレバーをハンドルに取り付けてください。
2. ねじを締め付け、ブレーキレバーを固定してください。



ブレーキレバーの取り付け_001

1	ブレーキレバー
2	ねじ

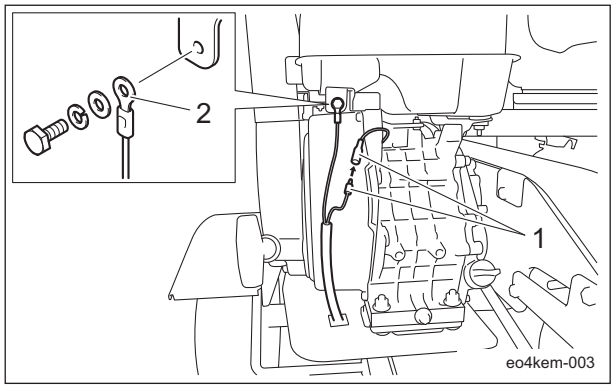
エンジンスイッチコードの接続

警告

エンジンスイッチコードが接続不良であった場合、エンジンスイッチを操作してもエンジンが停止しません。
確実に接続されているか確認してください。

ハンドル取り付け後、エンジンスイッチコードの接続確認を行ってください。
接続部は 2 か所あり、ギボシと圧着端子部分です。

1. ギボシはエンジンから出ているギボシと接続されています。
2. 圧着端子は六角ボルトによりエンジンクランクケースに締め付けてあります。



エンジンスイッチコードの接続_001

1	ギボシ
2	圧着端子

動作確認

1. ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. 各レバーが完全に動作するか確認してください。
   - スロットルレバー
   - 走行クラッチレバー
   - リールクラッチレバー
   - チェンジレバー
3. 調整が必要な場合は、調整を行ってください。

使用前の点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず使用前の点検をしてください。

リールカッターとベッドナイフ

リールカッターとベッドナイフの点検

使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより切れにくくなることがあります。
リールカッターとベッドナイフの点検をし、必要に応じて刃合わせ調整、リールカッターとベッドナイフのバックラッピング、研磨、または交換をしてください。

1. リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れにくくなっていないか確認してください。
2. リールカッターとベッドナイフが割れていないか確認してください。
3. リールカッターとベッドナイフの磨耗量を確認してください。
4. リールカッターとベッドナイフが研削焼けし、変色していないか確認してください。
5. リールカッターのリリーフ（2 番）があるか確認してください。
6. リールカッターと円盤との溶接がはがれていないか確認してください。

カバー

カバーの点検

警告

点検時にカバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。
カバーが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

1. リールカバーおよび各カバーに磨耗や劣化が無いか確認してください。
2. リールカバーおよび各カバーに破損が無いか確認してください。
3. リールカバーおよび各カバーの変形による可動部への干渉が無いか確認してください。
4. リールカバーおよび各カバーが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

ベルト

ベルトの点検

警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

注意

点検時にカバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。
カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

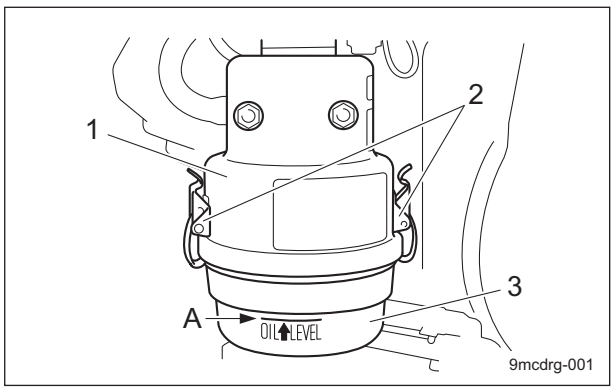
1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

エアクリーナー

エアクリーナーの点検

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。
エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エアクリーナーには、防塵のためオイルを使用しています。

1. エアクリーナーに損傷が無いか確認してください。
2. エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。
3. オイルがオイルレベル線まで入っているか確認してください。



エアクリーナーの点検_001

1	エアクリーナー
2	キャッチクリップ
3	オイルパン
A	オイルレベル線

エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. エアクリーナーエレメントを取り外してください。

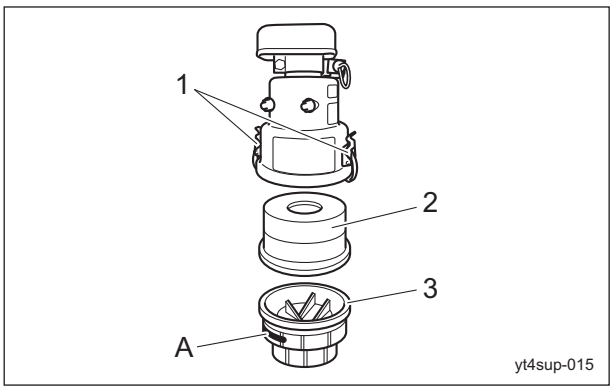
重要

エアクリーナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

重要

オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。

3. エアクリーナーエレメントは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、エンジンオイルに浸し、滴下しない程度に絞ってください。
4. オイルパンは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、オイルをオイルレベル線まで入れてください。
5. エアクリーナーエレメントを取り付けてください。
6. オイルパンを取り付けてください。



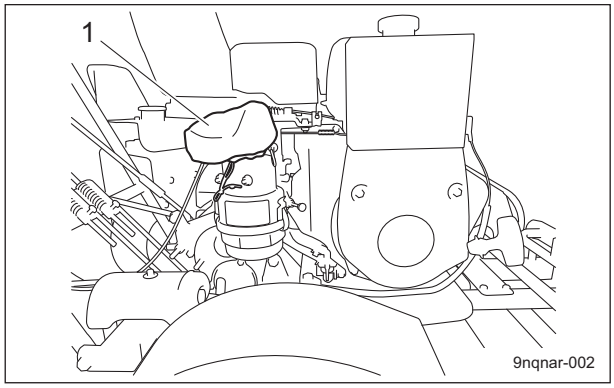
エアクリーナーの清掃_001

1	キャッチクリップ
2	エアクリーナーエレメント
3	オイルパン
A	オイルレベル線

エアークリーナーカバー

エアークリーナーカバーの点検

1. エアークリーナーにカバー（布袋）が確実にかぶっているか確認してください。
2. カバーの汚れがひどい場合は、新品と交換してください。



エアークリーナーカバーの点検_001

1	エアークリーナーカバー

ローラー

ローラーの点検

使用頻度によるベアリングの磨耗や、水分が入ることでベアリングなどが損傷することにより、ローラーが円滑に回らないことがあります。
ローラーの点検をし、必要に応じてオイルシール、ベアリングなどの部品を交換してください。

1. ローラーの減り、固着が無いか確認してください。
2. ローラー軸が磨耗していないか確認してください。
3. オイルシールの磨耗、損傷は無いか確認してください。
4. ベアリングの磨耗、さびは無いか確認してください。
5. ローラー軸にガタが無いか確認してください。

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
後輪	4.80/4.00-8 4PR	120 kPa （1.2 kgf/cm^2）

ブレーキ

ブレーキの点検

⚠ 注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

1. ブレーキレバーを握り、ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. ブレーキレバーを強く握ったとき、ブレーキレバーがロックされるか確認してください。
3. ロック解除レバーを握ったとき、ブレーキレバーのロックが解除されるか確認してください。
4. ブレーキレバーのロックを解除したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

クラッチ

クラッチの点検

1. クラッチレバーを操作し、クラッチが完全に動作するか確認してください。
2. クラッチレバーの作動状態が良好か確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

エンジン

エンジン周りの点検

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

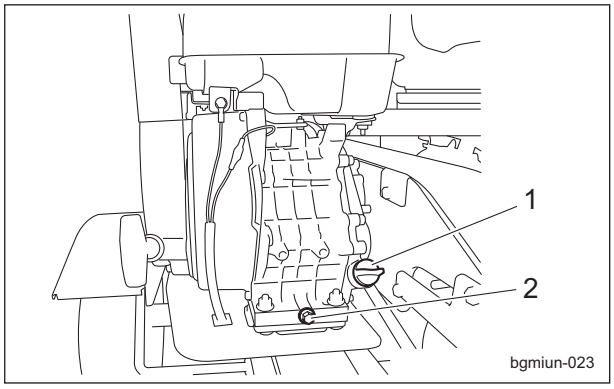
エンジンオイル

エンジンオイルの点検

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

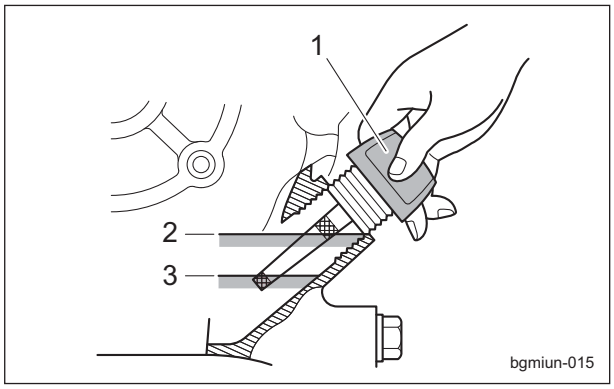
1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 － 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ（オイル注入口）
2	ドレンプラグ

3. エンジンオイル量が上限と下限の間にあれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

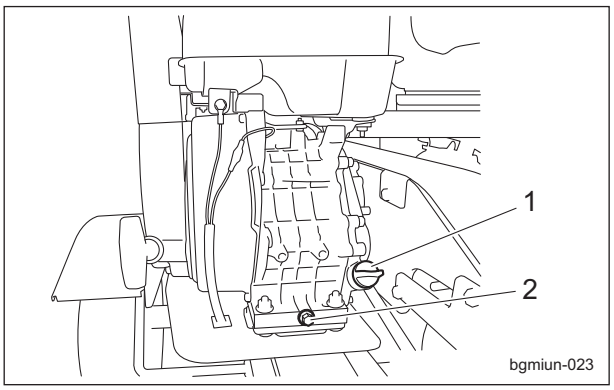
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルゲージを取り外してください。
2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限になるまでエンジンオイルを入れてください。
3. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



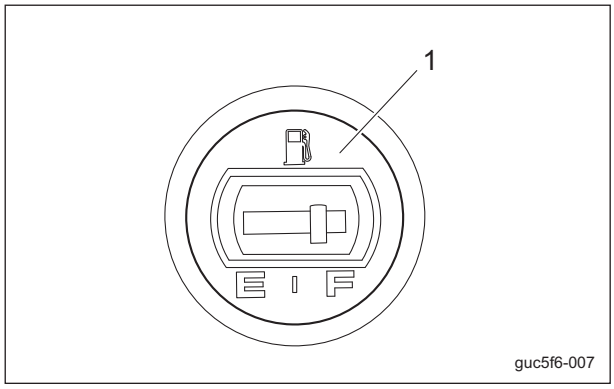
エンジンオイルの補給_001

1	オイルレベルゲージ（オイル注入口）
2	ドレンプラグ

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料ゲージにて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	燃料ゲージ

燃料の給油

警告

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれて火災になるおそれがあります。

警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

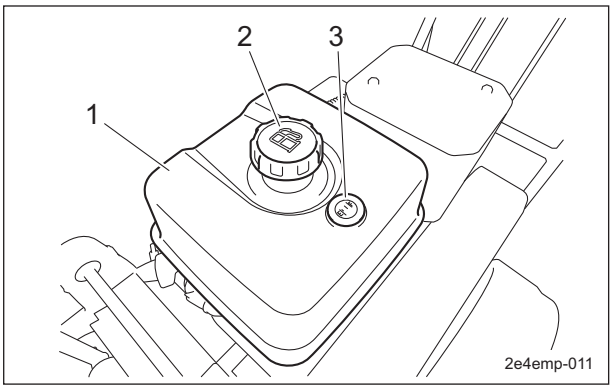
警告

燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、EMPTY に近づいたら早めに燃料（ガソリン）の給油を行ってください。
燃料タンク容量は、約 6.0 dm^3（6.0 L）です。



燃料の給油_001

1	燃料タンク
2	タンクキャップ
3	燃料ゲージ

燃料ストレーナー

燃料ストレーナーの点検

燃料ストレーナーは、燃料タンク近くに取り付けてあり、キャブレターへの流入燃料をきれいにします。
燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて清掃または、交換してください。

1. 燃料漏れが無いか確認してください。
2. 傷、汚れが無いか確認してください。

燃料ストレーナーの清掃

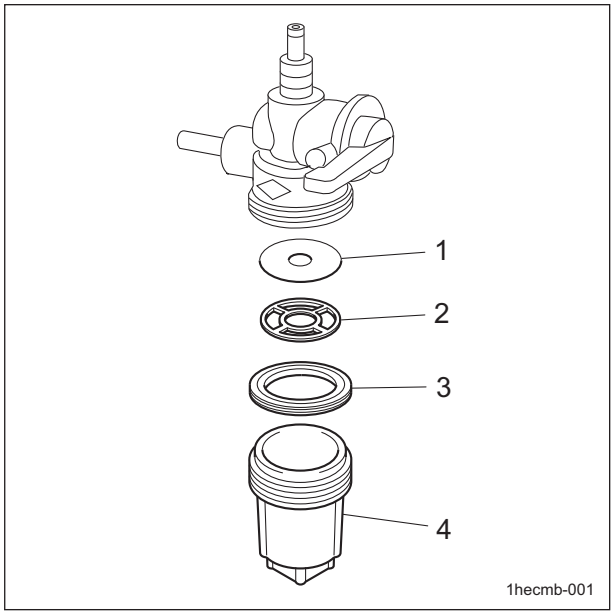
燃料ストレーナーは、埃やゴミがたまると燃料の流れが悪くなります。
定期的に清掃を行ってください。

重要

燃料ストレーナーの清掃は、埃やゴミの無い清潔な場所で行ってください。

1. 燃料フィルターの燃料コックを閉じてください。
2. 燃料コックのストレーナーカップを取り外してください。
3. ストレーナーカップ内部とフィルターを引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄してください。

4. 圧縮空気で乾燥させてください。



燃料ストレーナーの清掃_001

1	フィルター
2	パッキン A
3	パッキン B
4	ストレーナーカップ

重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。
燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料の流れが悪くなります。

5. 元のように正しく組み付けてください。
6. 燃料タンクに燃料を満たし、燃料コックを開いてください。
7. 燃料漏れが無いか確認してください。

油漏れ

各部油漏れの点検

50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。
必ず増し締めを行ってください。
機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みの出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
	tib3yb-001		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	tib3yb-002			tib3yb-003		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：
「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

LM81A/LM81TA
次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。
ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

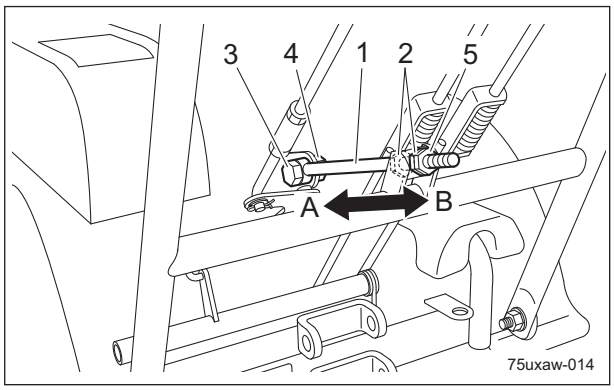
部位	コード番号	品名	締め付けトルク Nm			ねじ緩み止め剤	備考
			N-m	kgf-cm	lb-in		
ミッション部	K0071000030	5 ミッションケースノックボルト	7	71.38	61.96	-	手締め
	K0033050121	5 調質ボルト 12	7	71.38	61.96	-	手締め
モア部	K0145160002	16U ナット P1.5	36	367.09	318.64	-	
	K0071000092	10 調質さら小ねじ 20	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-	
	K0071000262	10 ニップル穴付ボルト 20	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-	

使用前の調整

ハンドルの調整

作業者の作業位置に合わせてハンドル高さを調整することができます。

1. ボルト、ナットBを緩めてください。
2. ロックナットを緩めてください。
3. ハンドル固定軸のナットAを前後に調整してください。
4. ロックナットを締め付けてください。
5. ボルト、ナットBを締め付けてください。
6. チェンジ位置を調整してください。
7. ベルトの張りを調整してください。



ハンドルの調整_001

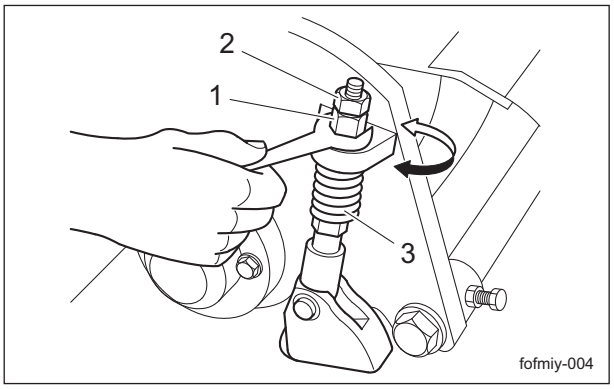
1	ハンドル固定軸
2	ナットA
3	ボルト
4	ナットB
5	ロックナット
A	前方
B	後方

刃合わせ調整

⚠ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。
ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切るおそれがありますので、十分注意してください。

1. エンジンを停止してください。
2. ロックナットを緩めてください。
3. リールカッターとベッドナイフの刃合わせ調整は、カッター調節ナットにより刃先全面を軽く接触させ、新聞紙（1 － 2枚）がけばだたず切れるように調整してください。
4. 短冊型に裂いた新聞紙1枚をリールカッターとベッドナイフの間に90°に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。リールカッターの全面（3 － 4か所程度）にわたり、切れ味を調べてください。
   - 刃先にすき間が生じた場合
     カッター調節ナットを締めると（時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は強くなります。
   - リールカッターが固くて回転しにくい場合
     カッター調節ナットを緩めると（反時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は弱くなります。
   - 調整しても切れない場合
     リールカッターのバックラッピングをしてください。
5. ロックナットを締め付けてください。



刃合わせ調整_001

1	カッター調節ナット
2	ロックナット
3	スプリング

刈高の調整

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

> **重要**
>
> **セット刈高のため実際の刈高とは異なります。**

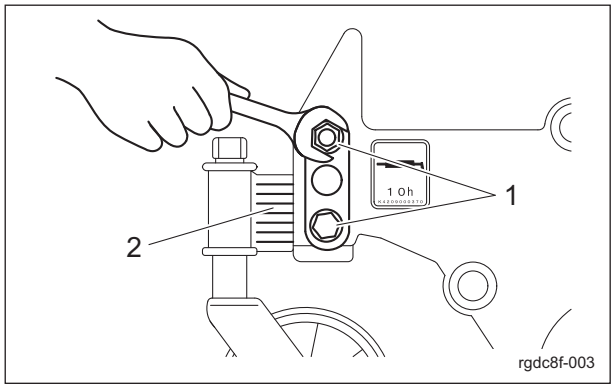
前車輪の調整

参考：
この機能は仕様により、無い場合があります。

> **重要**
>
> **刈高調整は、タイヤの空気圧が規定値の状態で行ってください。**

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

1. 車輪ブラケットのナットを緩めてください。
2. 刈高目盛を参考に任意の刈高に設定してください。
3. 車輪ブラケットのナットを締め付けてください。



前車輪の調整_001

1	ナット
2	刈高目盛

4. 反対側の刈高調整も同様の手順で行ってください。

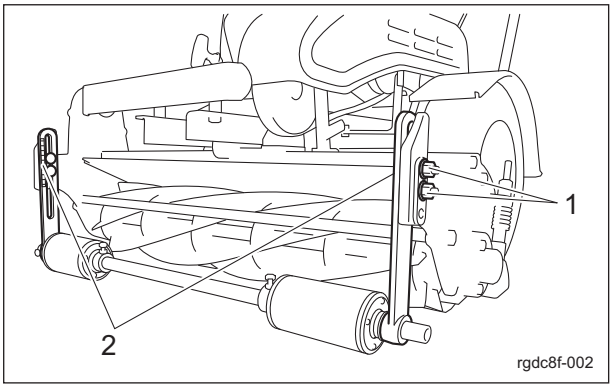
前ローラーの調整

参考：
この機能は仕様により、無い場合があります。

> **重要**
>
> **刈高調整は、タイヤの空気圧が規定値の状態で行ってください。**

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

1. ローラーブラケットのナットを緩めてください。
2. 刈高目盛を参考に任意の刈高に設定してください。
3. ローラーブラケットのナットを締め付けてください。



前ローラーの調整_001

1	ナット
2	刈高目盛

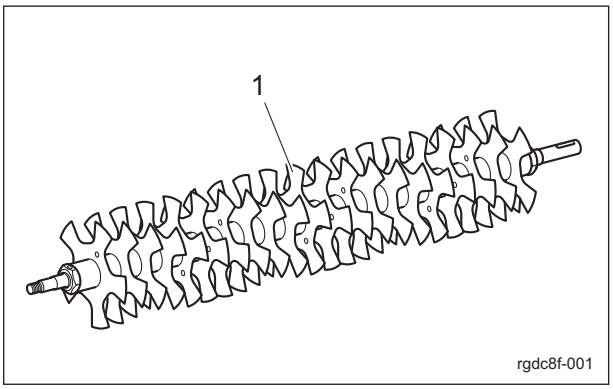
4. 反対側の刈高調整も同様の手順で行ってください。

バーチカッターの調整

参考：
この機能は仕様により、無い場合があります。

> **重要**
>
> **作業高さの調整は、タイヤの空気圧が規定値の状態で行ってください。**

バーチカッターは、リールカッターの代わりに装着することが可能です。
作業に応じて、作業高さを調整してください。
作業高さの調整は、刈高の調整と同様の手順で行ってください。



バーチカッターの調整_001

1	バーチカッター

エンジン始動・停止方法

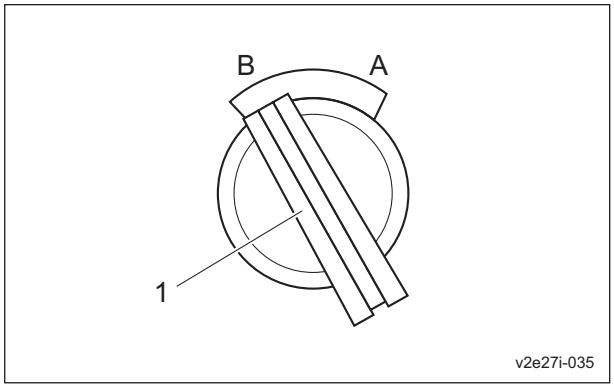
エンジン始動・停止

エンジン始動手順

⚠ 警告

エンジンを始動する前に機械の周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

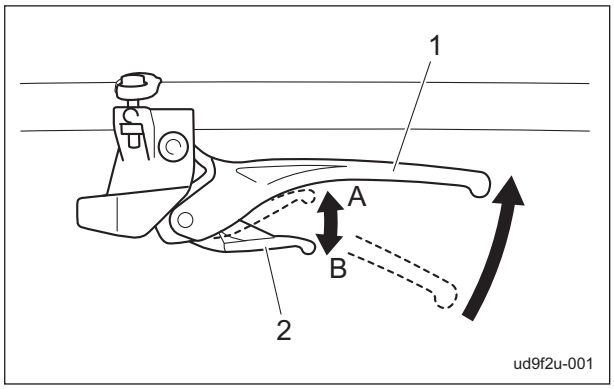
1. エンジンスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。



エンジン始動手順_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

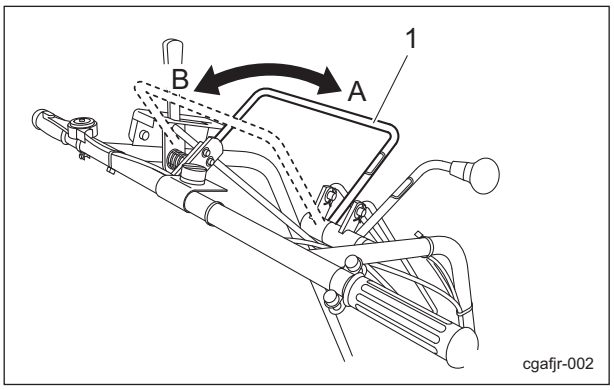
2. ブレーキがロックされていることを確認してください。



エンジン始動手順_002

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

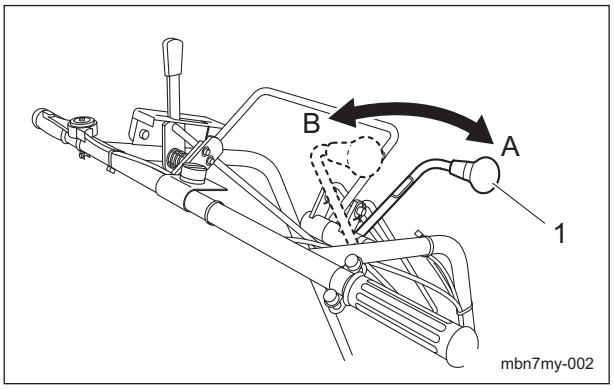
3. 走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン始動手順_003

1	走行クラッチレバー
A	「切」
B	「入」

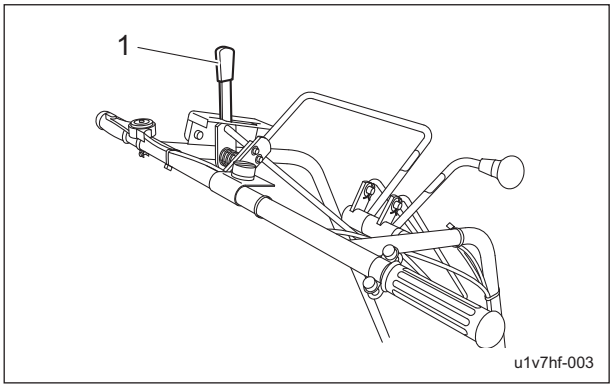
4. リールクラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン始動手順_004

1	リールクラッチレバー
A	「切」
B	「入」

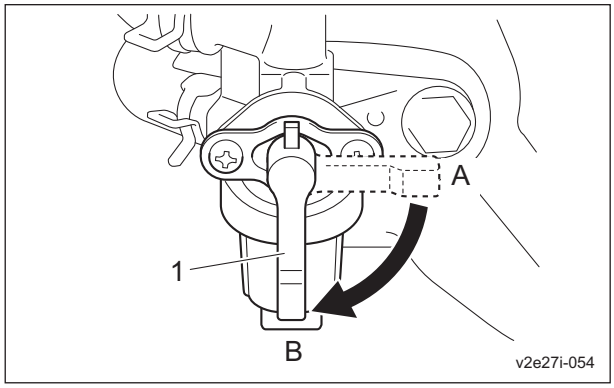
5. チェンジレバーを「N」の位置にしてください。



エンジン始動手順_005

1	チェンジレバー

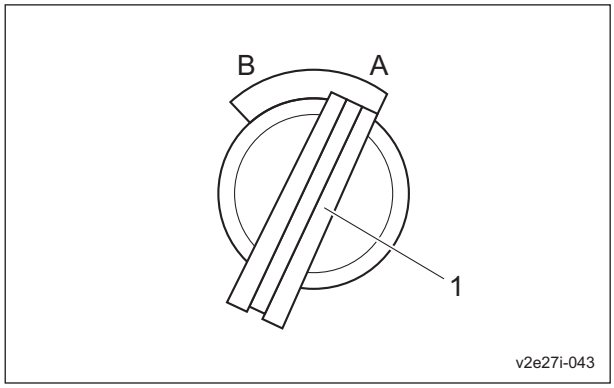
6. 燃料コックを「開」の位置にしてください。



エンジン始動手順_006

1	燃料コック
A	「閉」
B	「開」

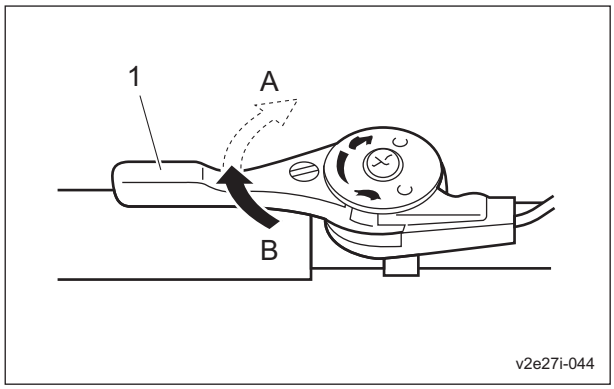
7. エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。



エンジン始動手順_007

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

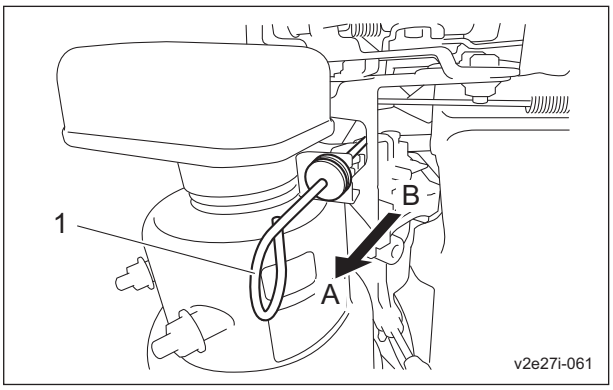
8. スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かしてください。



エンジン始動手順_008

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

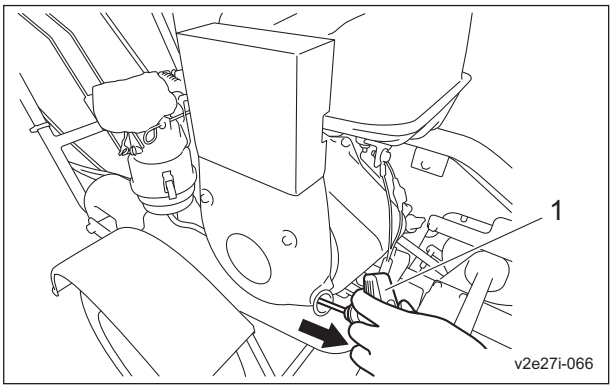
9. チョークレバーをいっぱいまで引いてください。



エンジン始動手順_009

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

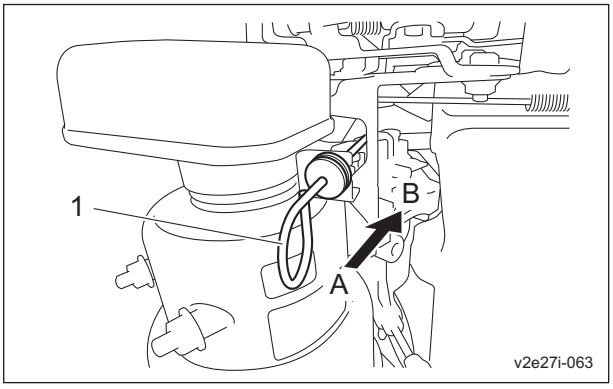
10. リコイルスターターを引き、エンジンを始動してください。



エンジン始動手順_010

1	リコイルスターター

11. チョークレバーをいっぱいまで押し込んでください。

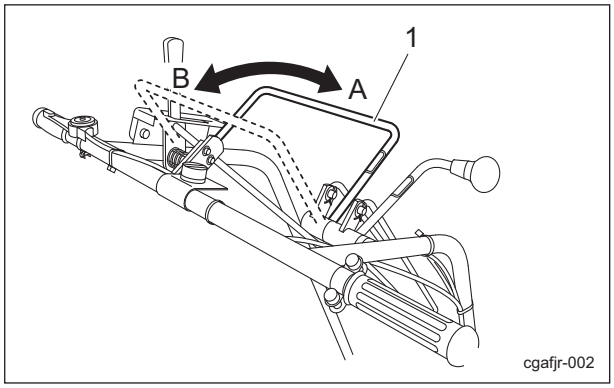


エンジン始動手順_011

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

エンジン停止手順

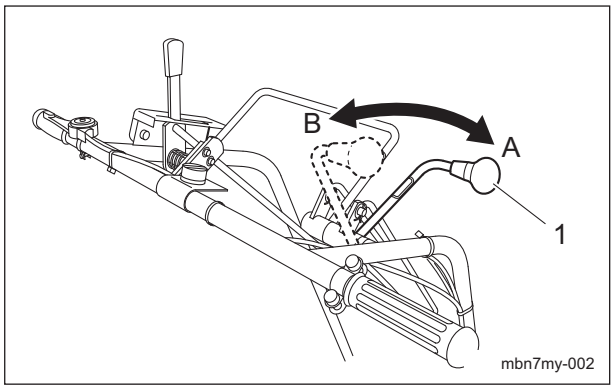
1. 走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_001

1	走行クラッチレバー
A	「切」
B	「入」

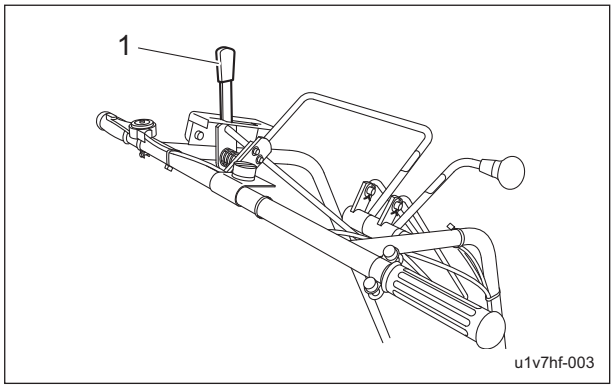
2. リールクラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_002

1	リールクラッチレバー
A	「切」
B	「入」

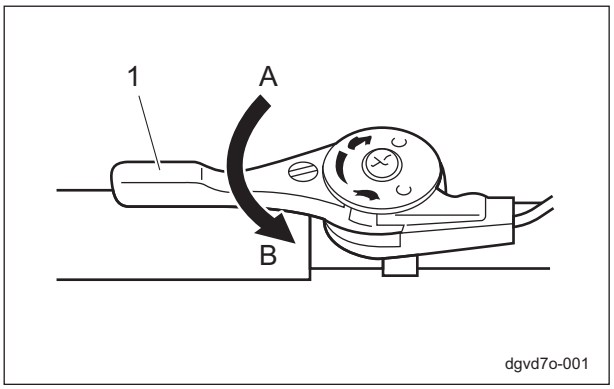
3. チェンジレバーを「N」の位置にしてください。



エンジン停止手順_003

1	チェンジレバー

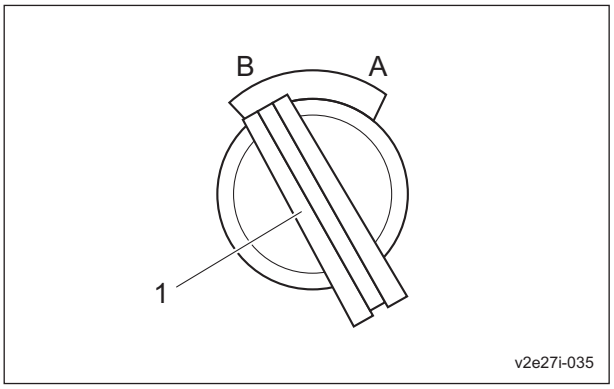
4. スロットルレバーを「低速」側の位置にしてください。



エンジン停止手順_004

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

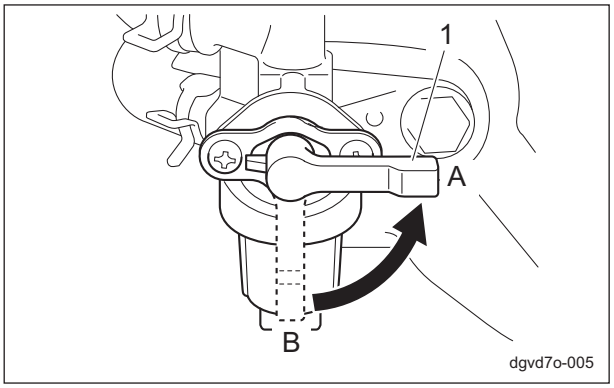
5. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください。



エンジン停止手順_005

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

6. 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



エンジン停止手順_006

1	燃料コック
A	閉
B	開

各部の操作方法

機械を離れるときの注意

注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

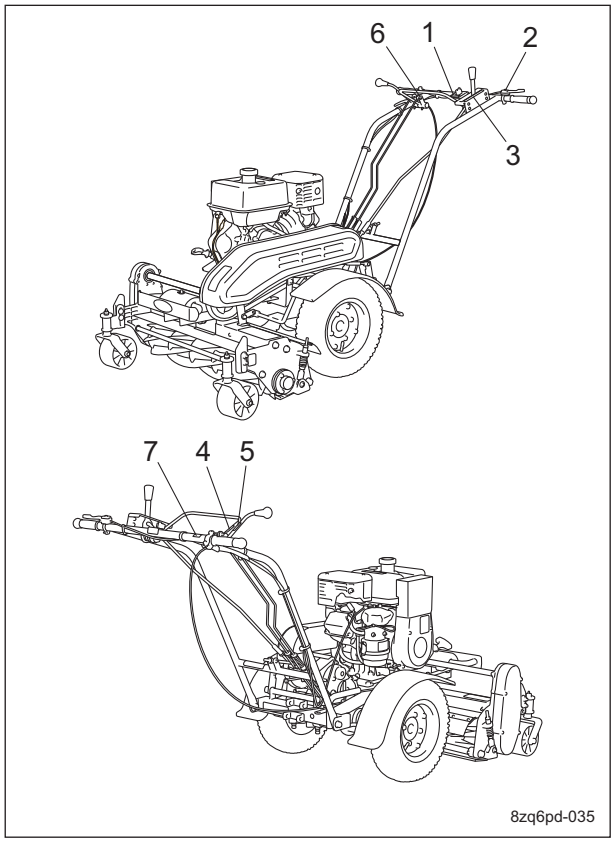
注意

エンジンが確実に停止していることを確認してください。

注意

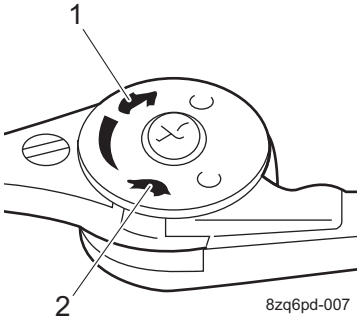
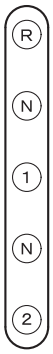
ブレーキレバーがロックされていることを確認してください。

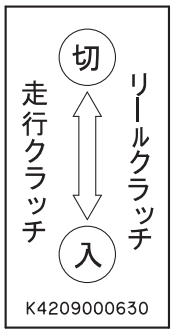
操作ラベルの説明



操作ラベルの説明_001

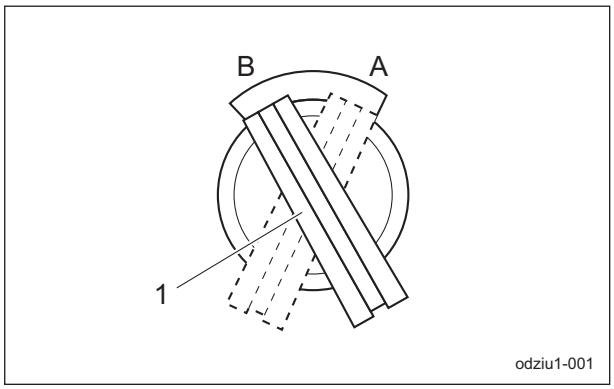
1	エンジンスイッチマーク
2	エンジン回転マーク
3	チェンジマーク
4	走行クラッチレバーマーク
5	リールクラッチレバーマーク
6	クラッチ指示マーク
7	ブレーキレバーマーク

1	K4203000680 エンジンスイッチマーク エンジンスイッチの位置を示しています。	 8zq6pd-025
2	- エンジン回転マーク エンジン回転速度の高速・低速を示しています。 1. 高速 2. 低速	 8zq6pd-007
3	K4203000900 チェンジマーク チェンジレバーの位置を示しています。 1. 前進（1 速） 2. 前進（2 速） R. 後進 N. 中立	 8zq6pd-036
4	K4203000100 走行クラッチレバーマーク 走行クラッチレバーの位置を示しています。	 8zq6pd-037
5	K4203000110 リールクラッチレバーマーク リールクラッチレバーの位置を示しています。	 8zq6pd-038

6	K4209000630 クラッチ指示マーク クラッチレバーの入・切を示しています。	 8zq6pd-039
7	K4203000440 ブレーキレバーマーク ブレーキレバーの位置を示しています。	 8zq6pd-040

エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、ハンドルにあります。
エンジンを始動するときはスイッチを「ON」の位置にし、エンジンを停止するときはスイッチを「OFF」の位置にします。

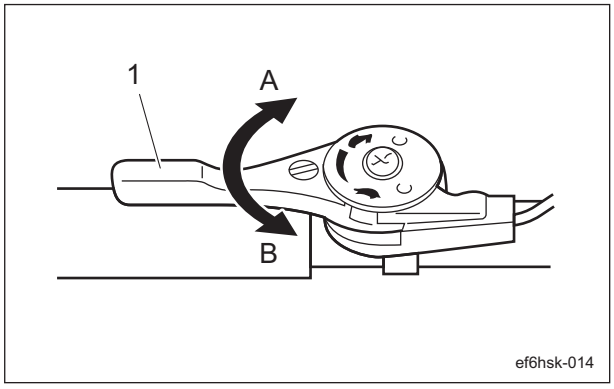


エンジンスイッチ_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

スロットルレバー

スロットルレバーは、ハンドルにあり、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。
スロットルレバーは、「高速」側にするとエンジン回転速度が高くなり、「低速」側にするとエンジン回転速度が低くなります。
参考：
出荷時のエンジン最高回転速度は、1,850 rpm に設定してあります。
作業は、1,500 rpm を目安に行ってください。



スロットルレバー_001

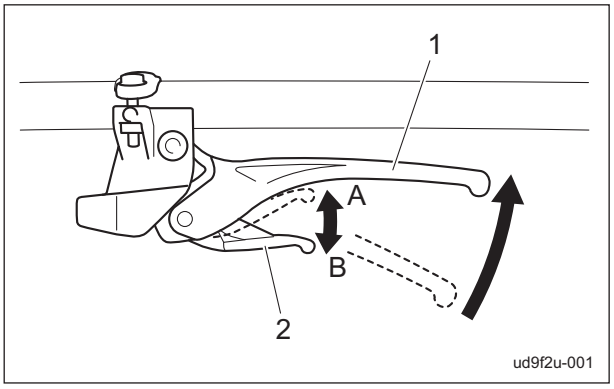
1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

ブレーキレバー

重要

走行中の駐車ブレーキ操作は、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。
ブレーキレバーを操作するときは、走行クラッチレバーを切ってください。

ブレーキレバーはハンドルにあります。
ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、ブレーキレバーを強く握るとブレーキレバーがロックされます。
ロック解除レバーを握ると、ブレーキレバーのロックは解除されます。
参考：
駐車ブレーキとして使用することができます。



ブレーキレバー_001

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

走行クラッチレバー

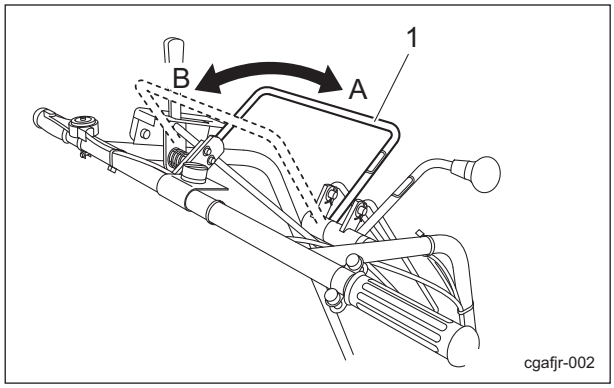
警告

後進時は、後方に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

重要

走行クラッチレバーは、チェンジレバーを作業や移動に適した位置に操作してから操作してください。

走行クラッチレバーはハンドルにあります。
走行クラッチレバーを手前に引くとテンションが入り走行します。
走行クラッチレバーを押すとテンションが切れます。



走行クラッチレバー_001

1	走行クラッチレバー
A	「切」
B	「入」

チェンジレバー

警告

後進時は、後方に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

注意

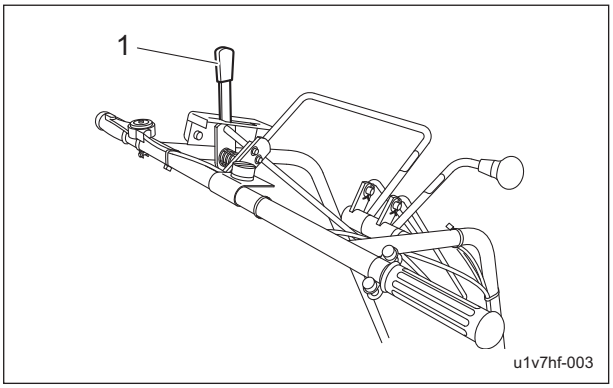
チェンジレバーは、平坦な場所で、走行クラッチレバーを切ってから操作してください。

重要

ミッションが破損するおそれがありますので、走行中はチェンジレバーを切り替えないでください。

チェンジレバーはハンドルにある変速装置です。
作業や移動に適した任意の位置にレバーを合わせてください。

前進	1（低速）	4.8 km/h
	2（高速）	7.2 km/h
後進	R	3.6 km/h
中立	N	-



チェンジレバー_001

1	チェンジレバー

リールクラッチレバー

⚠ 警告

リールカッターの回転している部分は危険ですので、手足や物を入れたり、触れたりしないでください。

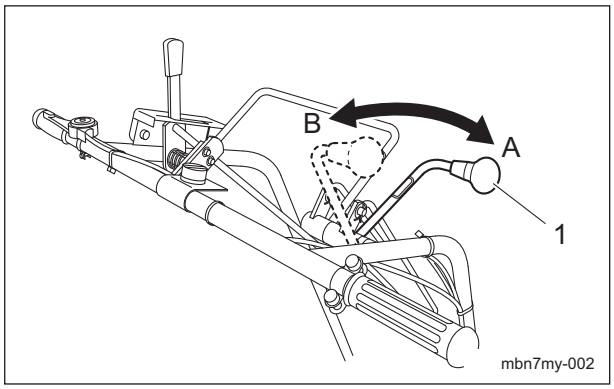
⚠ 注意

リールクラッチレバーは、刈り込む直前に入れ、それ以外のときは、必ず切っておいてください。

重要

リールクラッチレバーはゆっくりと入れてください。
急激に入れると、エンストの原因になります。

リールクラッチレバーはハンドルにあります。
リールクラッチレバーをB方向に動かすとリールカッターが回転します。
リールクラッチレバーをA方向に動かすとリールカッターの回転が停止します。



リールクラッチレバー_001

1	リールクラッチレバー
A	「切」
B	「入」

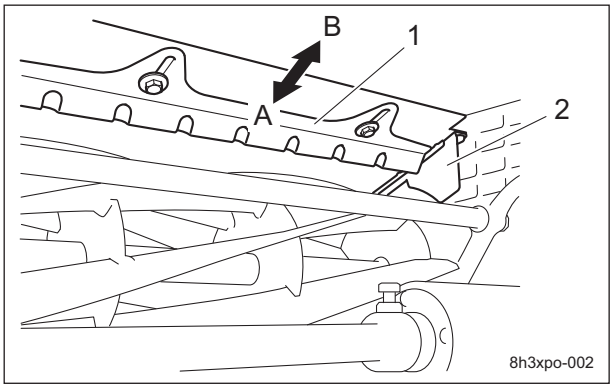
風量調整板

参考：
この機能は仕様により、無い場合があります。

⚠ 注意

風量調整板は、エンジンの回転が停止しているときに調整してください。

刈り取る芝生丈が短いとき、乾燥した芝生を刈り取るときは、刈り取った芝生がグラスキャッチャーからこぼれる場合があります。
風量調整板と側板をリールカバーに取り付けることで、刈り取った芝生がグラスキャッチャーからこぼれるのを改善することができます。
風量調整板をスライドさせて位置を変更することで刈り芝の飛散角度を調整します。
風量を少なくするときは、風量調整板をリールカッターに近づけてください。
風量を多くするときは、風量調整板をリールカッターから遠ざけてください。



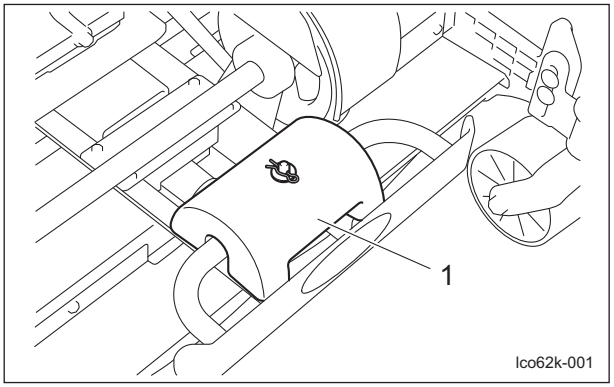
風量調整板_001

1	風量調整板
2	側板
A	近い
B	遠い

バランスウエイト

この機械には機械の前後バランスを取るためのバランスウエイトが取り付けられています。

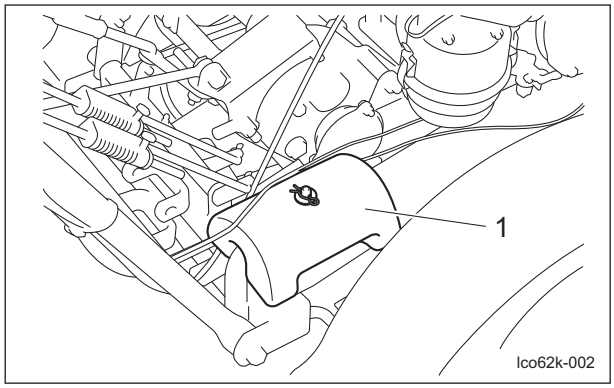
LM81A
バランスウエイトは機械の前方に取り付けられています。



バランスウエイト_001

1	バランスウエイト

LM81TA
バランスウエイトは機械の後方に取り付けられています。



バランスウエイト_002

1	バランスウエイト

移動

移動操作

⚠ 警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

⚠ 注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

1. エンジンを始動します。
2. チェンジレバーを任意の位置にします。
3. ブレーキを解除します。
4. 走行クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にします。
5. 機械は走行を始めます。

刈り込み

刈り込み操作

⚠ 警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

⚠ 注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。
凸凹面の刈り込みは、刈り込み速さを遅くして行ってください

1. エンジンを始動します。
2. チェンジレバーを任意の位置にします。
3. ブレーキを解除します。
4. リールクラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、リールカッターを回転させます。
5. 走行クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、刈り込みを始めます。

グラスキャッチャーの脱着

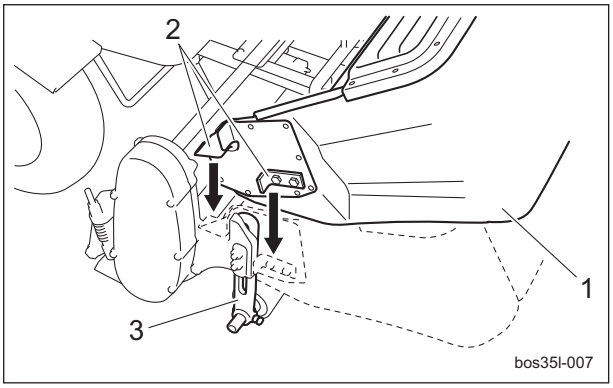
参考：
この機能は仕様により、無い場合があります。

⚠ 注意

グラスキャッチャーの脱着はエンジンを停止して行ってください。

グラスキャッチャーの取り外し：
グラスキャッチャーを上に持ち上げ、グラスキャッチャーの左右の掛け金をローラーブラケットから取り外してください。

グラスキャッチャーの取り付け：
グラスキャッチャーの左右の掛け金をローラーブラケットに掛けて取り付けてください。



グラスキャッチャーの脱着_001

1	グラスキャッチャー
2	掛け金
3	ローラーブラケット

運搬

運搬方法

⚠ 注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープをエンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤーを曲げないように注意してください。

この機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、この機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

メンテナンス

メンテナンス上の注意 .....Page 5-2

メンテナンス時の機械姿勢 .....Page 5-2

メンテナンススケジュール .....Page 5-3

規定値 .....Page 5-5

グリースアップ .....Page 5-6

グリースアップについて .....Page 5-6
グリースアップ位置 .....Page 5-6

ジャッキアップ .....Page 5-8

ジャッキアップについて .....Page 5-8
ジャッキアップポイント .....Page 5-8

メンテナンスの方法 ..... Page 5-8

カッター調節スプリングの調整 ..... Page 5-8
リールカッターのバックラッピング .....Page 5-9
リールカッターの研磨 .....Page 5-11
リールカッターの交換 .....Page 5-12
ベッドナイフの交換 ..... Page 5-12
ベッドナイフ台の脱着 .....Page 5-13
ベッドナイフの脱着 ..... Page 5-16
リール軸カバーの脱着 .....Page 5-17
タイヤの脱着 .....Page 5-18
ブレーキの調整 ..... Page 5-18
ベルトの張り調整 .....Page 5-18
チェンジ調節ロッドの調整 ..... Page 5-20
チェーンの張り調整 ..... Page 5-21
エアクリーナーの交換 .....Page 5-22
エンジンオイルの交換 .....Page 5-22
ミッショングリースの交換 ..... Page 5-22

長期保管 ..... Page 5-23

長期保管について .....Page 5-23

メンテナンス

メンテナンス上の注意

⚠ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリーは BARONESS 純正部品をお求めください。
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンス時の機械姿勢

重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側を下にして倒した姿勢で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となることがありますので注意してください。
また、ハンドルを立てた位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10 分経過してからエンジンを始動してください。

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。
○・・・点検、調整、補給、清掃
●・・・交換（初回）
△・・・交換

		メンテナンス項目	作業前	作業後	10 時間ごと	25 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	300 時間ごと	1 年ごと	必要に応じて	備考
エンジン	*2	各種ボルトナットの締め付け	○									
	*2	燃料レベルの点検	○									
	*2	液漏れ（油、燃料）の点検	○									
	*2	エンジンオイルレベルの点検	○									「エンジンオイルの点検」「エンジンオイルの補給」参照
	*2	エアクリーナーの点検		○							△	「エアクリーナーの点検」「エアクリーナーの清掃」参照
	*2	エンジンおよびマフラー・排気管周辺の清掃		○								
		リコイルスターター防塵網の清掃		○								
	*2	エンジンオイルの交換				●	△					初回 25 h
	*2	点火プラグの点検						○			△	
	*2	燃料ストレーナー（コック）の清掃						○				
	*1	燃料タンク・燃料ろ過網の清掃							○			
	*1	バルブクリアランスの点検・調整							○			
	*1	燃焼室のカーボン除去							○			
		燃料ホースとクランプバンドの点検								○	△	
本体		タイヤの空気圧と状態の点検	○									「タイヤの点検」参照
		各部の損傷の点検	○									
		ボルト、ナットの締め付けの点検	○									
		走行クラッチレバーの作動の点検	○									「クラッチの点検」参照
		リールクラッチレバーの作動の点検	○									「クラッチの点検」参照
		チェンジレバーの作動の点検	○									
		ブレーキの作動の点検	○									「ブレーキの点検」「ブレーキの調整」参照
		駐車ブレーキの作動の点検	○									「ブレーキの点検」「ブレーキの調整」参照
		ハンドル位置の調整	○									「ハンドルの調整」参照
		カバーの状態の点検	○									「カバーの点検」参照
		グリース・油漏れの点検	○									「各部油漏れの点検」参照
		本体外装部の清掃		○								
		V ベルトの張り調整			○			○				初回 10 時間、2 回目以降 100 時間ごと 「ベルトの張り調整_リールクラッチ用ベルト」、「ベルトの張り調整_走行クラッチ用ベルト」参照

メンテナンス

メンテナンス項目			作業前	作業後	10時間ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと	1年ごと	必要に応じて	備考
本体		ブレーキワイヤーの点検						○			△	「ワイヤーの点検」参照
		電気配線の状態（損傷、汚損、接続部の緩み）の点検								○		
		可動部のグリースアップと注油								○		「グリースアップ位置」参照（A部）
		スロットルワイヤーの点検									○	「ワイヤーの点検」参照
		Vベルトの交換									△	
モアユニット		リールカッターとベッドナイフの状態の点検	○									「リールカッターとベッドナイフの点検」参照
		カバーの状態の点検	○									「カバーの点検」参照
		ローラー・車輪の状態の点検	○									「ローラーの点検」参照
		刃合わせ	○									「刃合わせ調整」参照
		刈高の確認	○									「刈高の調整」参照
		各部の損傷の点検	○									
		ボルト、ナットの締め付けの点検	○									
		モアユニットの清掃		○								
		バックラッピング		○								「リールカッターのバックラッピング」参照
		可動部のグリースアップと注油					○					「グリースアップ位置」参照（B部）
		チェーンの張り調整								○		「チェーンの張り調整」参照
		ギヤケース内ベアリングの交換								△		
		ローラー・車輪ベアリングの交換								△		
		ギヤケース内オイルシールの交換								△		
		ローラーオイルシールの交換								△		
		カッター調節スプリングの調整									○	「カッター調節スプリングの調整」参照
		刃（リールカッターとベッドナイフ）の研磨									○	必要に応じて刃の再研磨または交換 「リールカッターの研磨」、「リールカッターの交換」、「ベッドナイフの交換」参照

・ *1：点検整備は、お近くのバロネス販売店に相談の上、その指示に従ってください。
・ *2：エンジンの取扱説明書を参照ください。
・ 消耗品については、保証値ではありません。

規定値

燃料タンク容量	6.0 dm^3（6.0 L）	ガソリン
エンジンオイル容量	1.0 dm^3（1.0 L）	
タイヤ空気圧	120 kPa（1.2 kgf/cm^2）	4.80/4.00-8
カッター調節スプリング	30.0 mm（1.18 in）	スプリングコイルの長さ
走行クラッチ用ベルトの張り	10.0 mm（0.39 in）のたわみ	ベルトのプーリー間の中央を 25 N（2.5 kgf）で押す
リールクラッチ用ベルトの張り	10.0 mm（0.39 in）のたわみ	ベルトのプーリー間の中央を 25 N（2.5 kgf）で押す
チェーンの張り	10.0 mm（0.39 in）のたわみ	チェーンを 25 N（2.5 kgf）で押す
ミッションのグリース量	800 g	シトラックス EP1 号
	100 g	エクセライト EP2 号

グリースアップ

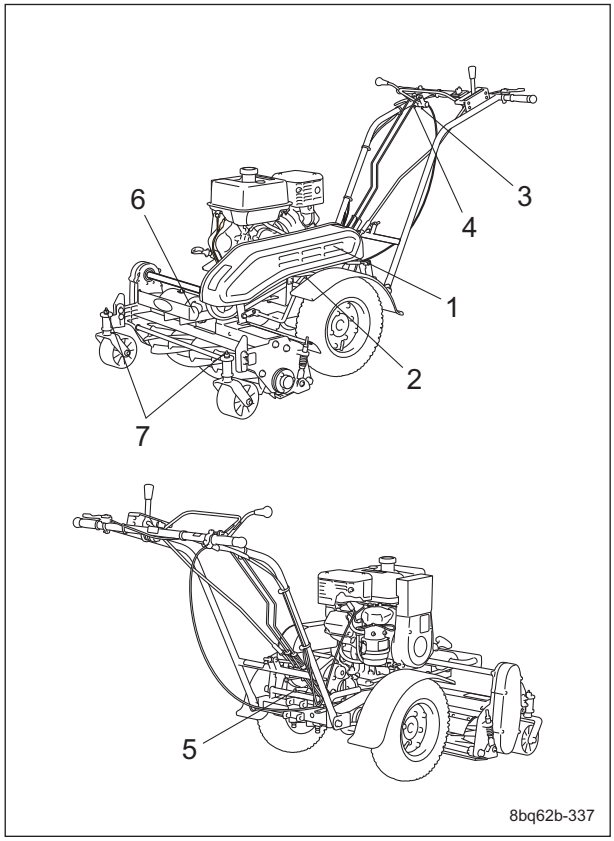
グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。
メンテナンススケジュールに従って、ウレア系 2 号グリースでグリースアップしてください。
その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。
指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

グリースアップ位置

次の場所にグリースニップルが取り付けてあります。
A は 1 年ごと、B は 50 時間ごとにグリースアップしてください。

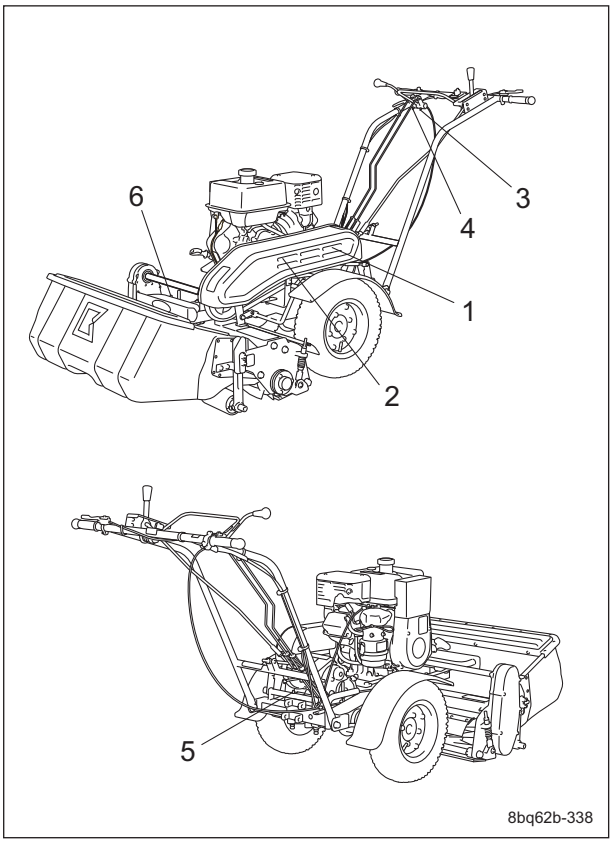
LM81A



グリースアップ位置_001

	部位	注油箇所数	注油時間	
1	テンションレバー	1	A	-
2	リールテンションレバー	1	A	-
3	走行クラッチレバー	1	A	-
4	リールクラッチレバー	1	A	-
5	走行レバー変換金	1	A	-
6	モア取付金	1	A	-
7	車輪アーム	2	-	B

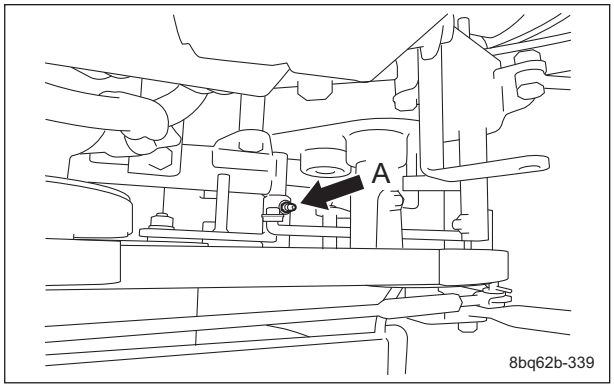
LM81TA



グリースアップ位置_002

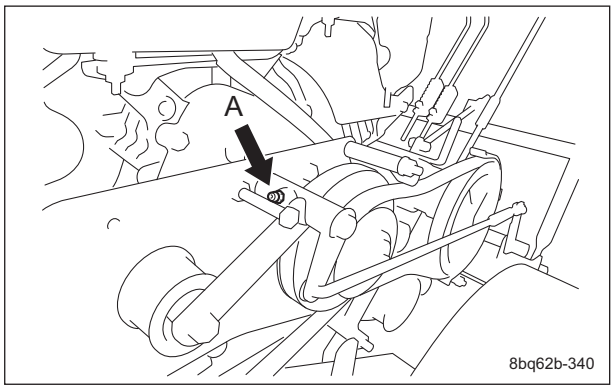
	部位	注油箇所数	注油時間	
1	テンションレバー	1	A	-
2	リールテンションレバー	1	A	-
3	走行クラッチレバー	1	A	-
4	リールクラッチレバー	1	A	-
5	走行レバー変換金	1	A	-
6	モア取付金	1	A	-

1. テンションレバー



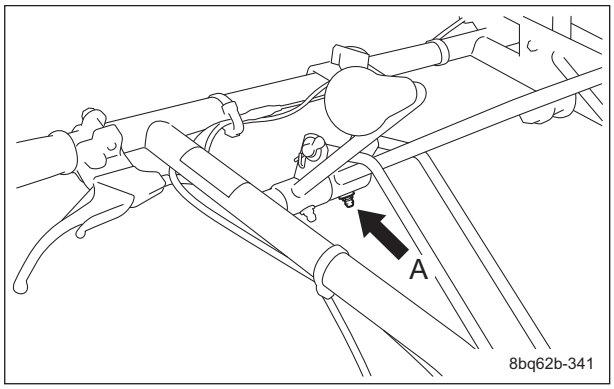
グリースアップ位置_003

2. リールテンションレバー



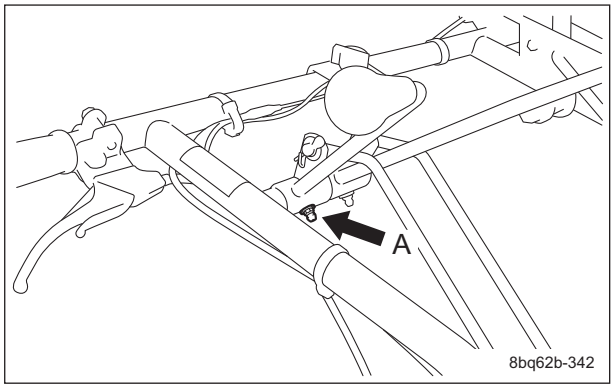
グリースアップ位置_004

3. 走行クラッチレバー



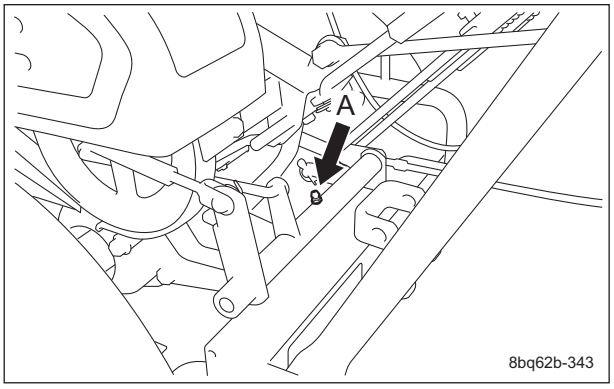
グリースアップ位置_005

4. リールクラッチレバー



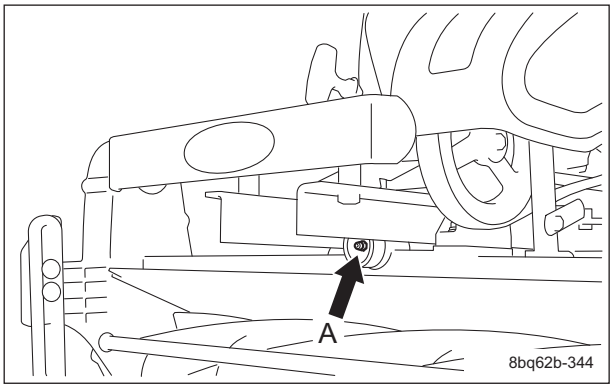
グリースアップ位置_006

5. 走行レバー変換金



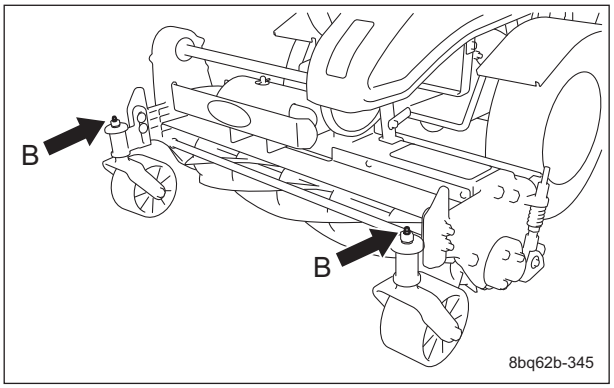
グリースアップ位置_007

6. モア取付金



グリースアップ位置_008

7. 車輪アーム
左右に 1 か所ずつあります。(LM81A のみ)



グリースアップ位置_009

ジャッキアップ

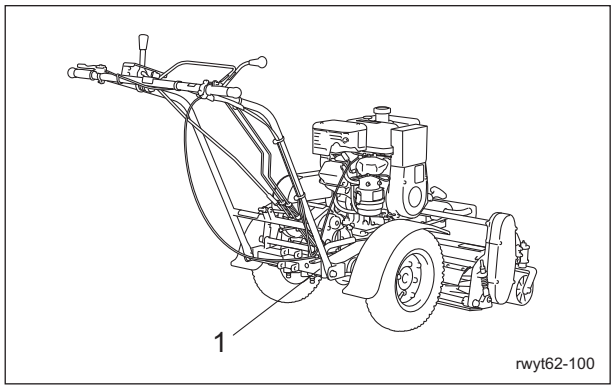
ジャッキアップについて

⚠ 警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、機械が動かないようにしてください。
機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。
必要に応じ、適切なチェーンブロックやホイスト、およびジャッキを使用してください。
持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。
ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりするおそれがあります。
人身事故の原因となります。

この機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。
指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。
フレームや部品が破損するおそれがあります。

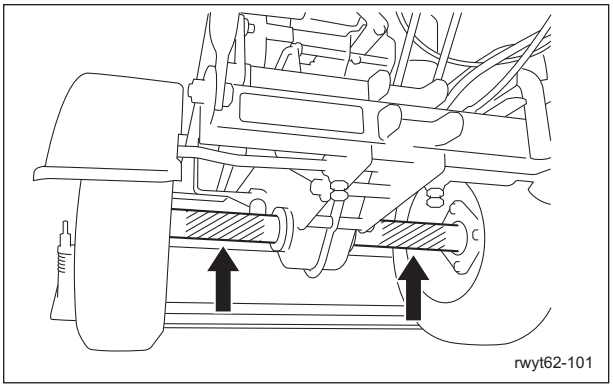
ジャッキアップポイント



ジャッキアップポイント_001

	ジャッキアップポイント
1	車輪取り付け部

1. 車輪取り付け部



ジャッキアップポイント_002

メンテナンスの方法

カッター調節スプリングの調整

⚠ 注意

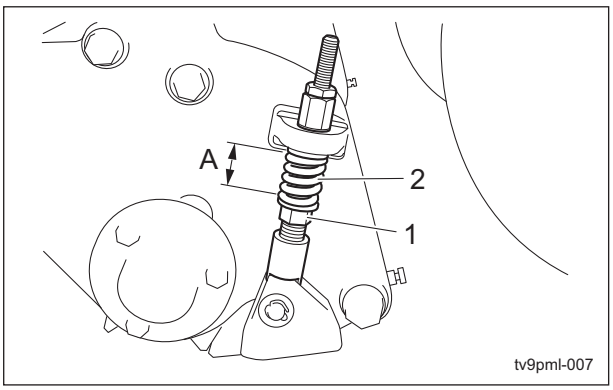
リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。
ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切るおそれがありますので、十分注意してください。

リールカッター径が小さくなったら、カッター調節スプリングの調整をしてください。

1. 刃合わせ調整を行ってください。
2. カッター調節ねじ付パイプを緩め、スプリングコイルの長さが 30.0 mm（1.18 in）になるように調節してください。



カッター調節スプリングの調整_001

1	カッター調節ねじ付パイプ
2	スプリングコイル
A	30.0 mm（1.18 in）

リールカッターのバックラッピング

バックラッピングとは、包丁の刃を研ぐようなもので、リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れづらくなった場合、ペースト状の研磨剤を塗って、リールカッターを逆回転させながら刃先を研ぐ作業のことです。
しかし、バックラッピングは応急処置的なもので、完全に切れ味は戻りません。
リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れ味が悪くなった場合は、以下の手順で、バックラッピングを行ってください。

⚠ 警告

バックラッピング作業中はリールカッターが回転しています。
可動部に手足を近づけないでください。

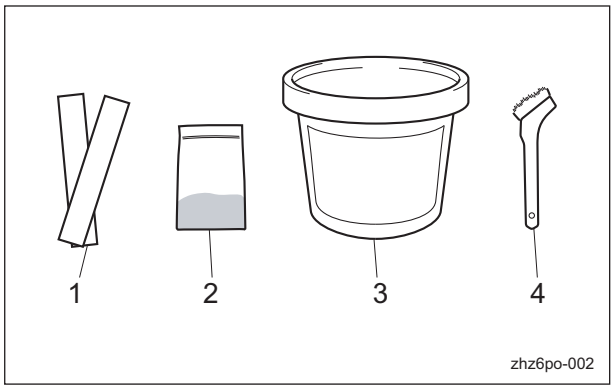
⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

二人以上でバックラッピング作業を行わないでください。

1. 新聞紙を短冊型に裂いたもの、バックラッピングパウダーをオイルで混合した研磨剤または、ジェルコンパウンド（バロネス純正研磨剤）、ブラシを用意します。



リールカッターのバックラッピング_001

1	新聞紙
2	バックラッピングパウダー
3	ジェルコンパウンド
4	ブラシ

参考：
研磨剤の混合比は体積比で、バックラッピングパウダー（#200 － #400）1：オイル 3 － 4 です。

2. ラッピングマシーンまたは、ラッピングハンドルを用意します。

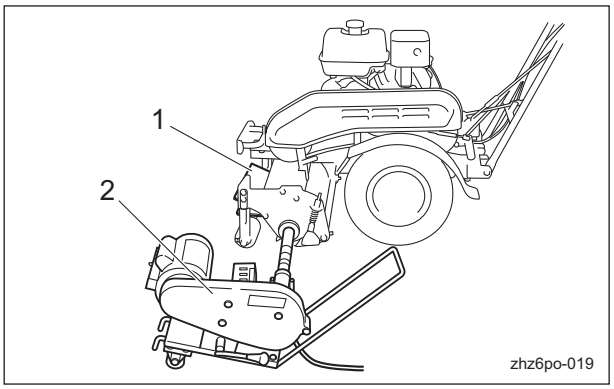
⚠ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。
ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれると、手や指を切るおそれがありますので十分注意してください。

重要

切れ味は、刈り込み後の刃合わせ状態で調べてください。

3. エンジンを停止してください。
4. 短冊型に裂いた新聞紙 1 － 2 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90 ° に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。
5. リールカッターの全面（3 － 4 か所程度）にわたり、切れ味を調べます。
6. 切れ味を調べ、切れ味の良いところにチョークなどで印を付けます。
7. ローラー受けやジャッキスタンドなどで、ベッドナイフが水平になるように機械を置きます。

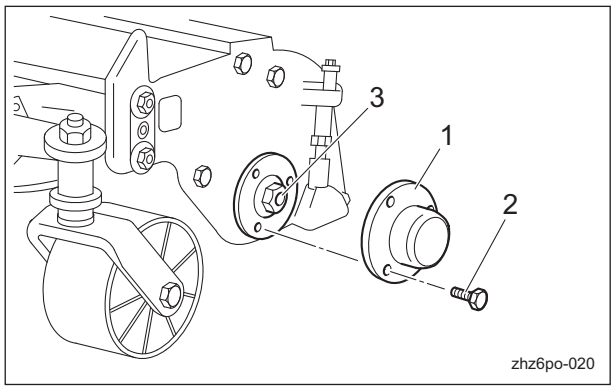


リールカッターのバックラッピング_002

1	ローラー受け
2	ラッピングマシーン

8. リール軸カバーを取り外してください。

9. ラッピングマシーンまたは、ラッピングハンドルを機械のリールカッター軸に接続します。



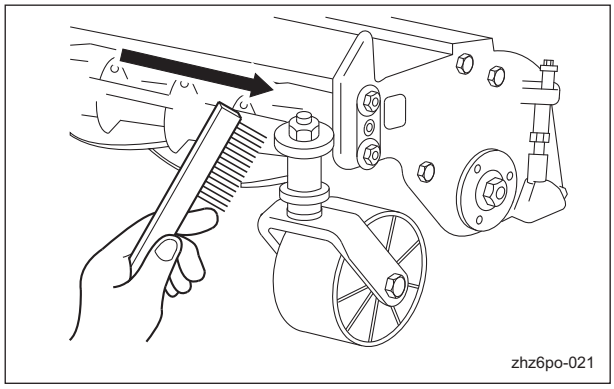
リールカッターのバックラッピング_003

1	リール軸カバー
2	ボルト
31	リールカッター軸

10. モアユニットを左から見てリールカッターを時計回転（逆回転）に回します。
    - ラッピングマシーンのスイッチを入れる。
      または、ラッピングハンドルを回す。

重要

リールカッターは（正面から見て）右側が左側より、早く磨耗するため、研磨剤を塗布するときは、必ず左から右へブラシを動かしてください。



リールカッターのバックラッピング_004

11. ブラシに研磨剤をつけ、チョークの印を目印にしてリールカッターの切れ味の良い部分の上面に均一に塗布します。
    (切れ味の悪い箇所には絶対に塗らないでください。)
12. しばらく回転させておき、接触音がしなくなったら、リールカッターの回転を停止させます。
    - ラッピングマシーンのスイッチを切る。
      または、ラッピングハンドルを回すのをやめる。
13. ラッピングマシーンまたは、ラッピングハンドルを取り外します。
14. リールカッターに塗布した研磨剤を洗い流すか、ウエスなどでふき取り、切れ味を調べます。
15. 手順 4. － 14. の作業を繰り返し、リールカッターの全面（3 － 4 か所程度）が均一な切れ味になるようにバックラッピングします。
16. 最後に研磨剤を、リールカッターの刃先全幅に塗って、仕上げのバックラッピングを行います。

重要

洗浄するときは、エンジンや電装品に水がかからないように注意してください。

17. 洗浄機などで研磨剤をきれいに洗い流します。
18. 切れ味の確認をしながら、刃合わせ調整を行ってください。

リールカッターの研磨

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

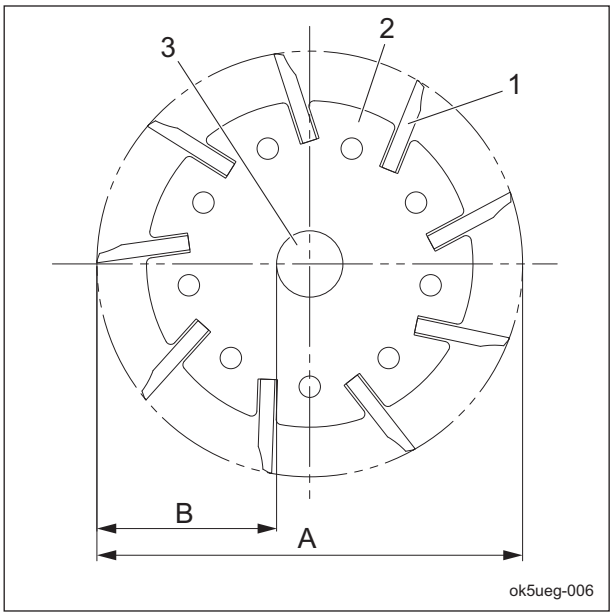
⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの研磨とは、リールカッターの真円を出す作業と、リリーフ（2 番）を作る作業のことです。
バックラッピングを行っても、切れ味が戻らない場合や、リリーフ（2 番）がなくなったときにする作業です。
バックラッピングを行っても切れ味が戻らない場合や、リリーフ（2 番）がなくなり、ベタ当たりしバックラッピングに時間がかかるようになった場合は、研磨を行ってください。
また、リールカッターが磨耗して円錐形になってしまった場合は、円筒研磨し、円筒形に戻してください。
リールカッターの研磨は、購入販売店または弊社までご依頼ください。
リールカッターは、研磨後、リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以上残る場合、研磨を行うことができます。

新品		使用限界	
寸法：A（リールカッター外径）	寸法：B（刃先外径部-リールカッター軸外径部）	寸法：A（リールカッター外径）	寸法：B（刃先外径部-リールカッター軸外径部）
163 mm（6.42 in）	68.8 mm（2.71 in）	143 mm（5.63 in）	58.8 mm（2.31 in）

参考：
リールカッター軸の外径寸法は、25.4 mm（1.00 in）です。



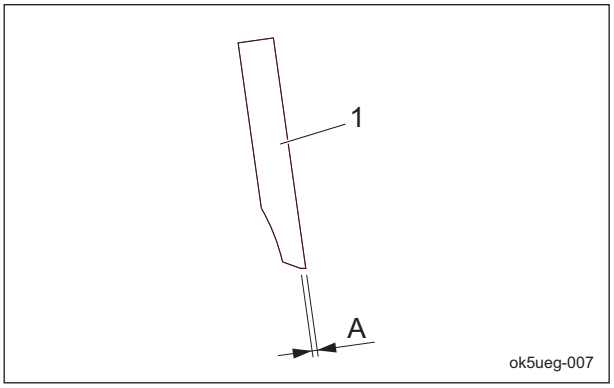
リールカッターの研磨_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

リールカッターが以下の状態になった場合は、研磨が必要です。

1. リールカッターの外径研磨幅（ベッドナイフ接触部の長さ）が、使用限界寸法以上になった場合。

リールカッター外径寸法（新品）	リールカッター外径研磨幅の使用限界寸法
163 mm（6.42 in）	3.0 mm（0.12 in）（メーカー推奨）



リールカッターの研磨_002

1	リールカッター刃
A	リールカッター外径研磨幅

2. 刃先が極端に丸くなり、バックラッピングでは刃のエッジが立てられない状態になった場合。

3. リールカッターが磨耗して円錐形になり、刃合わせ調整ができなくなった場合。

リールカッターの交換

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

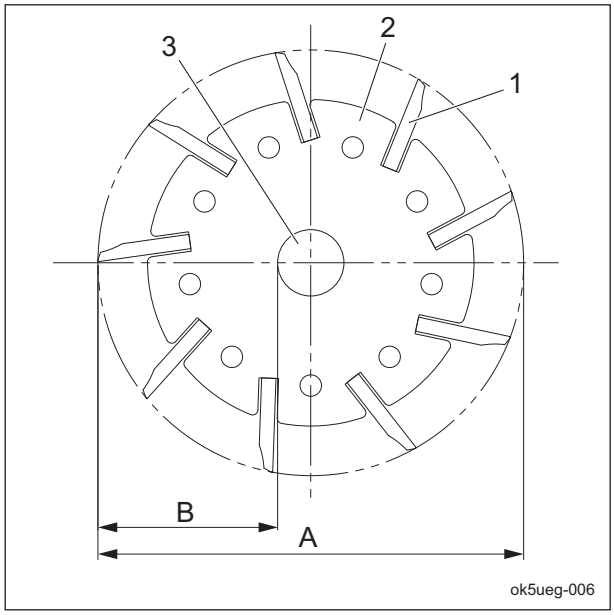
刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの交換の基準は、以下のとおりです。
ただし、基準値は目安であり、新品状態のリールカッターの性能を保証するものではありません。

1. リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以下になった場合。

新品		使用限界	
寸法：A（リールカッター外径）	寸法：B（刃先外径部-リールカッター軸外径部）	寸法：A（リールカッター外径）	寸法：B（刃先外径部-リールカッター軸外径部）
163 mm（6.42 in）	68.8 mm（2.71 in）	143 mm（5.63 in）	58.8 mm（2.31 in）

参考：
リールカッター軸の外径寸法は、25.4 mm（1.00 in）です。



リールカッターの交換_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

ベッドナイフの交換

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

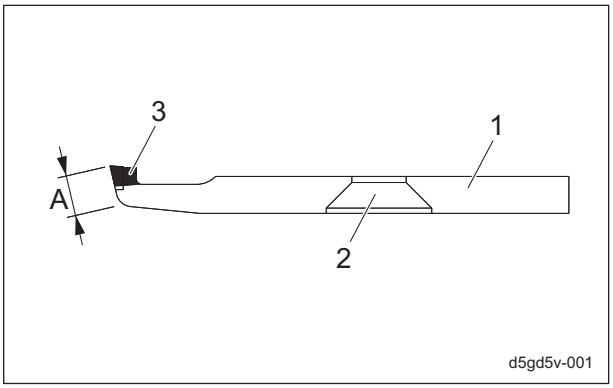
⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

ベッドナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

1. リールカッターを研磨した場合。
2. リールカッターを交換した場合。
3. ベッドナイフが磨耗した場合。

ハイス付刃
ベッドナイフのチップが無くなる前に交換してください。



ベッドナイフの交換_001

1	ベッドナイフ
2	取り付け穴
3	チップ
A	前面（フロントフェイス）

ベッドナイフ台の脱着

ベッドナイフ台の取り外し

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

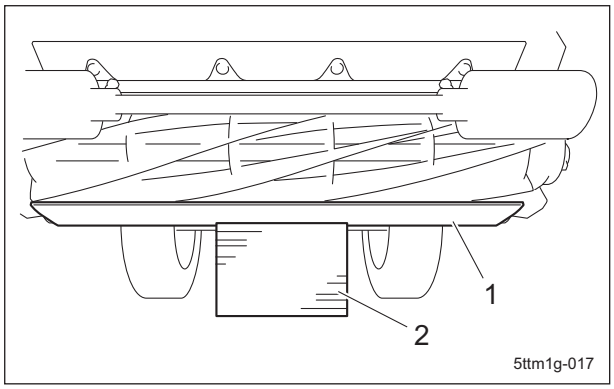
注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下するおそれがあります。
確実に機械をサポートしてください。

注意

ベッドナイフ台は重いので、落としてけがをしないようにしてください。

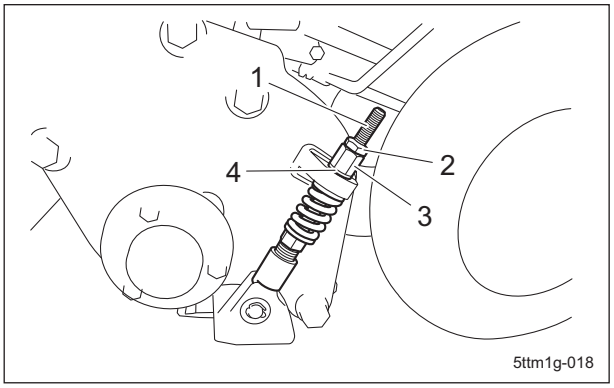
1. ベッドナイフ台の下に木片を置き、機械を安定させます。



ベッドナイフ台の取り外し_001

1	ベッドナイフ台
2	木片

2. 左右のカッター調節ボルトのロックナットを取り外してください。
3. 左右のナットを取り外してください。
4. 左右の座金を取り外してください。



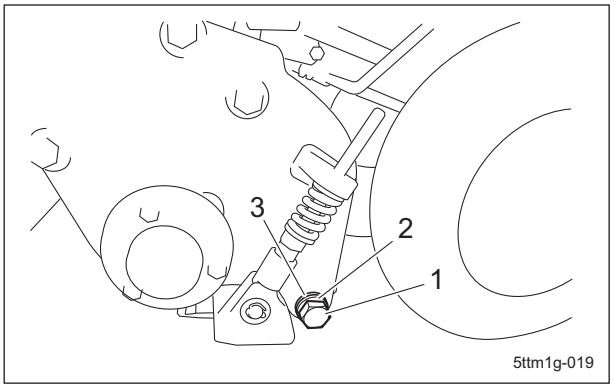
ベッドナイフ台の取り外し_002

1	カッター調節ボルト
2	ロックナット
3	ナット
4	座金

注意

カッターピンを取り外すと、ベッドナイフ台COMPが外れ、落ちてくるおそれがあります。

5. 左右のカッターピン、Sワッシャー、座金を取り外してください。

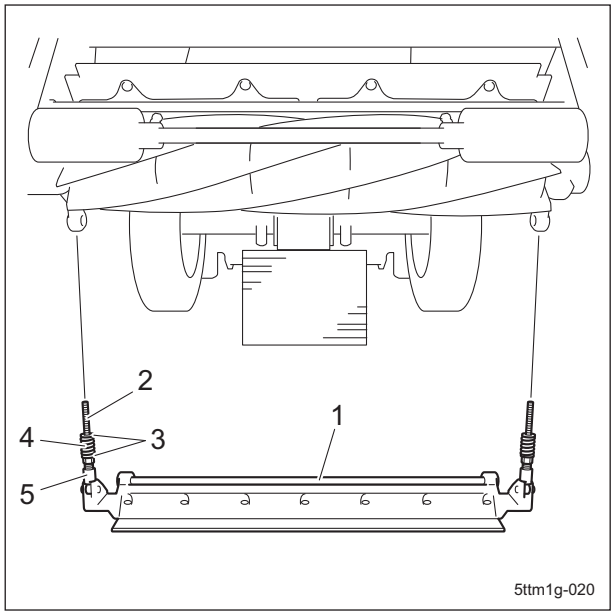


ベッドナイフ台の取り外し_003

1	カッターピン
2	Sワッシャー
3	座金

6. ベッドナイフ台COMPを取り外してください。

7. 左右のスプリング受け、カッター調節スプリング、カッター調節パイプを取り外してください。



ベッドナイフ台の取り外し_004

1	ベッドナイフ COMP
2	カッター調節ボルト
3	スプリング受け
4	カッター調節スプリング
5	カッター調節パイプ

ベッドナイフ台の取り付け

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

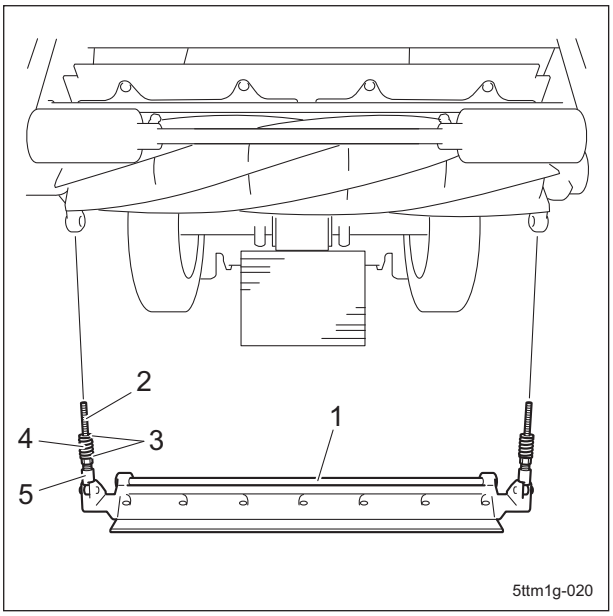
注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下するおそれがあります。
確実に機械をサポートしてください。

注意

ベッドナイフ台は重いので、落としてけがをしないようにしてください。

1. ベッドナイフ台 COMP の左右のカッター調節ボルトにカッター調節パイプ、スプリング受け、カッター調節スプリング、を取り付けてください。



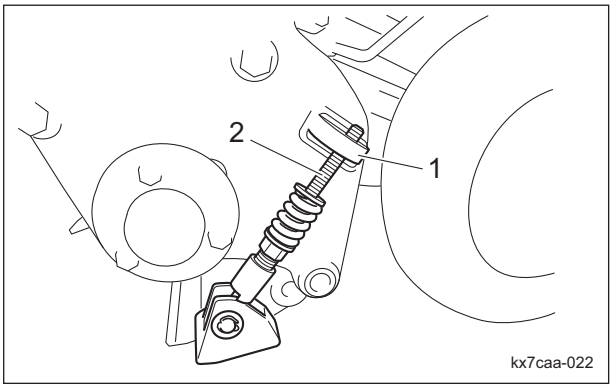
ベッドナイフ台の取り付け_001

1	ベッドナイフ COMP
2	カッター調節ボルト
3	スプリング受け
4	カッター調節スプリング
5	カッター調節パイプ

重要

ベッドナイフ台がリールカッターと平行になるように取り付けてください。

2. ベッドナイフ台 COMP を木のブロックで支え、左右フレームの取り付け穴に、カッター調節ボルトを差し込んでください。

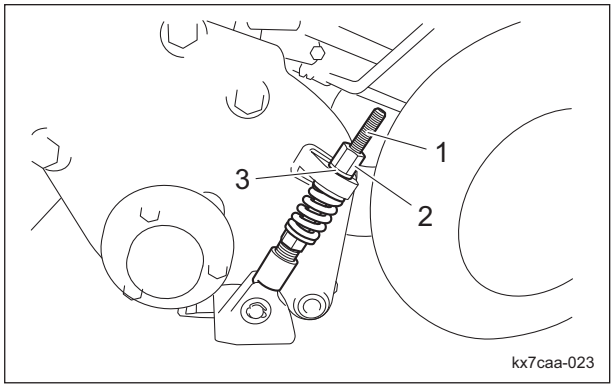


ベッドナイフ台の取り付け_002

1	フレーム
2	カッター調節ボルト

3. 左右の座金を取り付けてください。

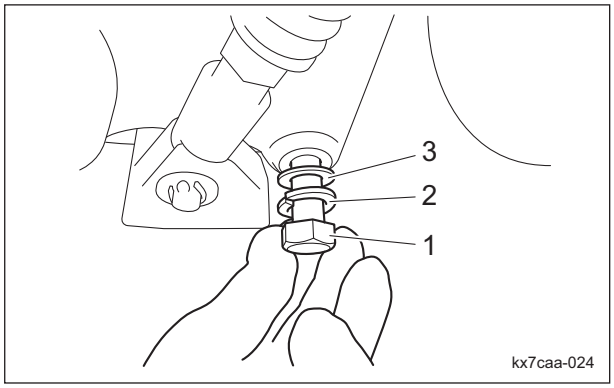
4. ナットを仮に取り付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_003

1	カッター調節ボルト
2	ナット
3	座金

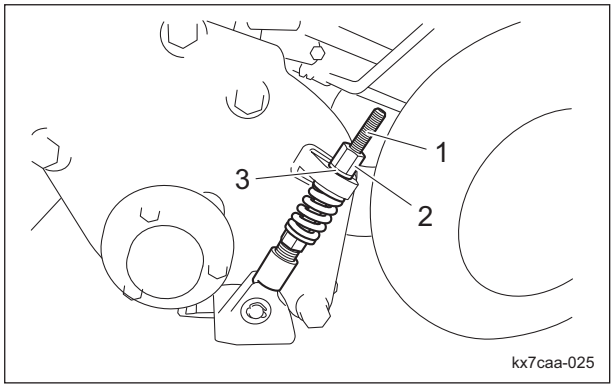
5. 左右フレームにカッターピン、S ワッシャー、座金を取り付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_004

1	カッターピン
2	S ワッシャー
3	座金

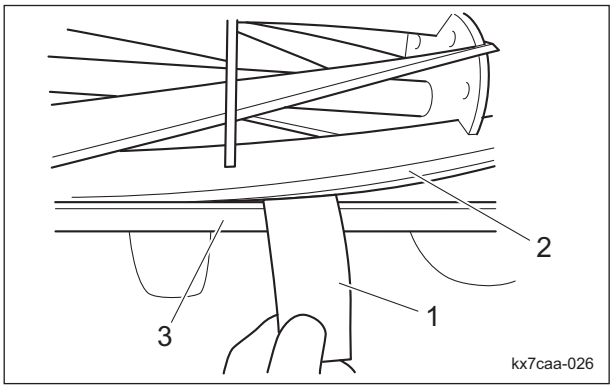
6. リールカッターとベッドナイフが全面均等に軽く接触するようにナットを締め付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_005

1	カッター調節ボルト
2	ナット
3	座金

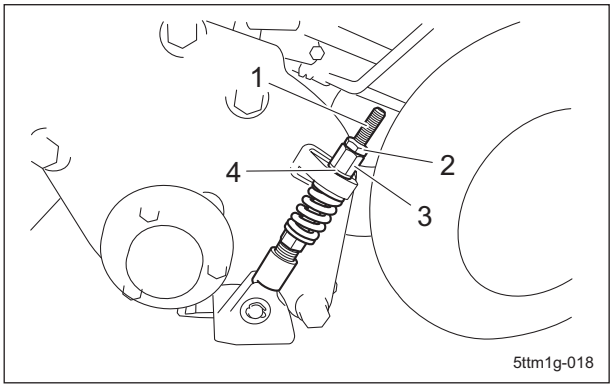
7. 短冊型に裂いた新聞紙 1 － 2 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90 ° に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを手で回して、リールカッターの全面（3 － 4 か所程度）にわたり、切れ味を調べてください。



ベッドナイフ台の取り付け_006

1	新聞紙
2	リールカッター
3	ベッドナイフ

8. 左右のロックナットを取り付け、締め付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_007

1	カッター調節ボルト
2	ロックナット
3	ナット
4	座金

ベッドナイフの脱着

ベッドナイフの取り外し

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

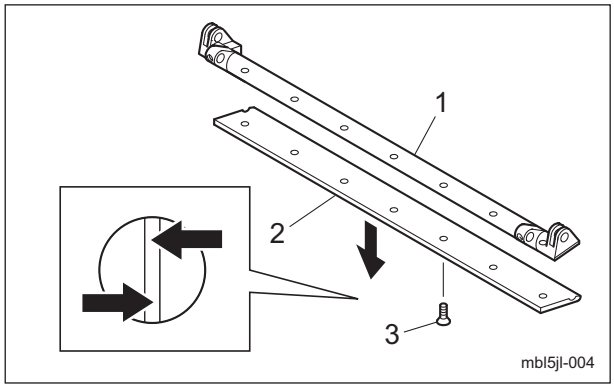
注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下するおそれがあります。
確実に機械をサポートしてください。

注意

ベッドナイフ台は重いので、落としてけがをしないようにしてください。

1. ベッドナイフ台 COMP を取り外してください。
2. ベッドナイフ台 COMP を安定した台の上に乗せてください。
3. ショックドライバーまたはポンチでねじを取り外し、ベッドナイフを取り外してください。



ベッドナイフの取り外し_001

1	ベッドナイフ台
2	ベッドナイフ
3	ねじ

ベッドナイフの取り付け

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下するおそれがあります。
確実に機械をサポートしてください。

注意

ベッドナイフ台は重いので、落としてけがをしないようにしてください。

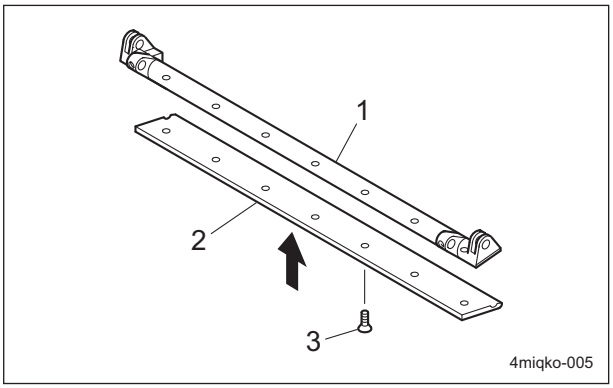
重要

ベッドナイフ台のナイフ取付面をキズつけないように注意してください。
サビや汚れを落としてください。

重要

ねじは新品に交換してください。

1. ショックドライバーでねじを均一に締め付け、ベッドナイフを取り付けてください。

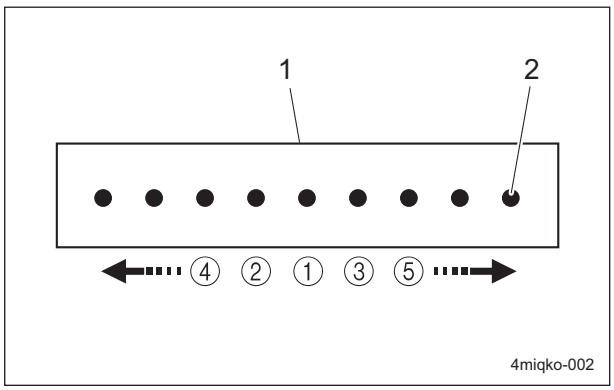


ベッドナイフの取り付け_001

1	ベッドナイフ台
2	ベッドナイフ
3	ねじ

重要

ベッドナイフを取り付けるときは、初めに中央をねじ止めし、以降は中央から外側に向かって左右交互にねじ止めしてください。



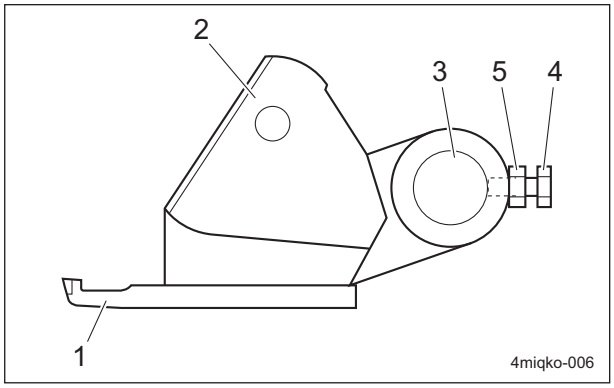
ベッドナイフの取り付け_002

1	ベッドナイフ
2	ねじ

重要

ベッドナイフ台とステーパイプにはクリアランスがあります。
ボルトを強く締め過ぎると刃合わせの際に刃先の動きに影響がでますので、注意してください。

2. ボルトを軽く押しつけてガタをなくし、ナットを締め付けてください。



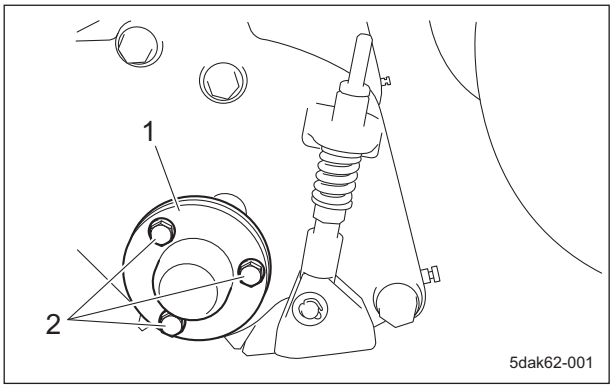
ベッドナイフの取り付け_003

1	ベッドナイフ
2	ベッドナイフ台
3	ステーパイプ
4	ボルト
5	ナット

リール軸カバーの脱着

リール軸カバーの取り外し

1. ボルトを 3 本取り外してください。
2. リール軸カバーを取り外してください。



リール軸カバーの取り外し_001

1	リール軸カバー
2	ボルト

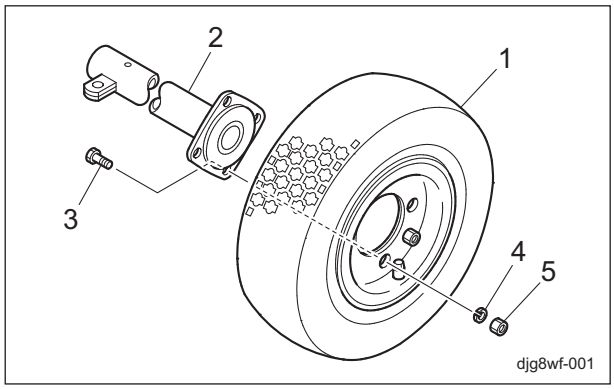
リール軸カバーの取り付け

リール軸カバーの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

タイヤの脱着

タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ナットを緩めます。
2. 車輪取り付け部のジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、タイヤが浮くまで上げます。
   「ジャッキアップポイント」(Page 5-8)
3. ボルト、S ワッシャー、ナットを 4 本取り外します。
4. 車輪取付座からタイヤを取り外します。



タイヤの脱着_001

1	タイヤ
2	車輪取付座
3	ボルト
4	S ワッシャー
5	ナット

重要

タイヤには向きがあります。
取り付ける場合は、空気注入口を外側にしてタイヤを取り付けてください。

タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

ブレーキの調整

⚠ 警告

ブレーキワイヤーが切れると、本機は停止不能となり大変危険です。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

⚠ 注意

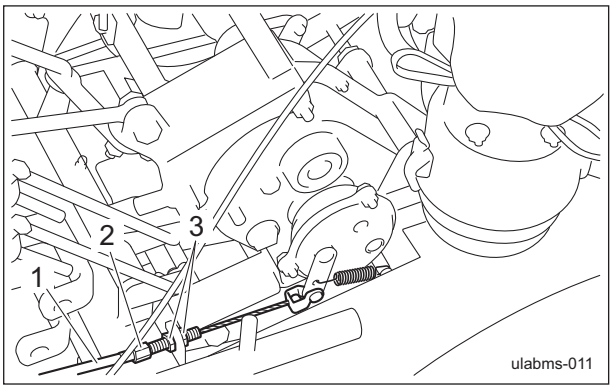
ブレーキをかけても、ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

重要

ワイヤーの引きすぎは、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

ブレーキは、ブレーキワイヤーのアジャストボルトで調整してください。

1. ブレーキレバーをロックしてください。
2. ロックナットを緩め、アジャストボルトをブレーキが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。
3. ブレーキレバーのロックを解除したときに、ブレーキシューがブレーキドラムに当たっていないことを確認してください。
   ブレーキの引きずりを防止します。
4. ブレーキレバーを握り、ロックできるか確認してください。



ブレーキの調整_001

1	ブレーキワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

ベルトの張り調整

⚠ 警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

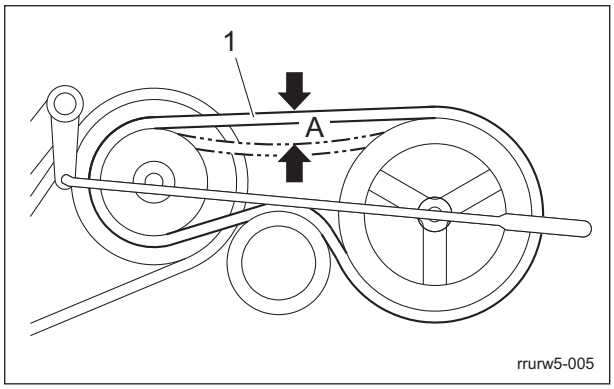
重要

ベルトの張りは、規定値を確認してください。
規定値であるかの確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。
また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。
必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

走行クラッチ用ベルト

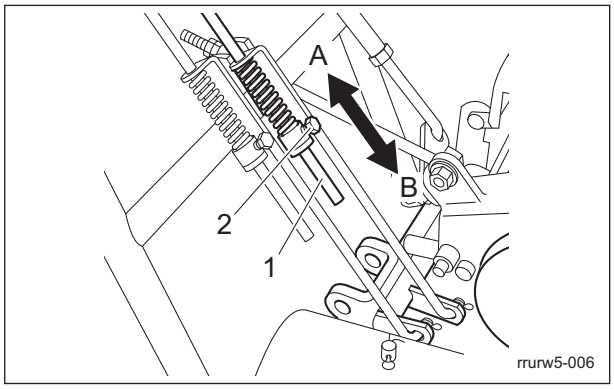
1. ベルトカバーを取り付けているボルトを 3 本緩めてください。
2. ベルトカバーを取り外してください。
3. 走行クラッチレバーを「入」の位置にし、ベルトの張り具合を確認してください。
   ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央（イラストの矢印部）を指で軽く 25 N（2.5 kgf）で押さえて 10.0 mm（0.39 in）たわむ程度であれば適正です。



走行クラッチ用ベルト_001

1	ベルト
A	10.0 mm（0.39 in）

4. ベルトのたわみ量が適切でない場合は、走行クラッチロッドの伸縮で調整します。
   ボルトを緩め、走行クラッチロッドの長さを調整してください。
   ベルトのたわみ量が規定値より小さいときは、走行クラッチロッドの長さを長くします。
   ベルトのたわみ量が規定値より大きいときは、走行クラッチロッドの長さを短くします。



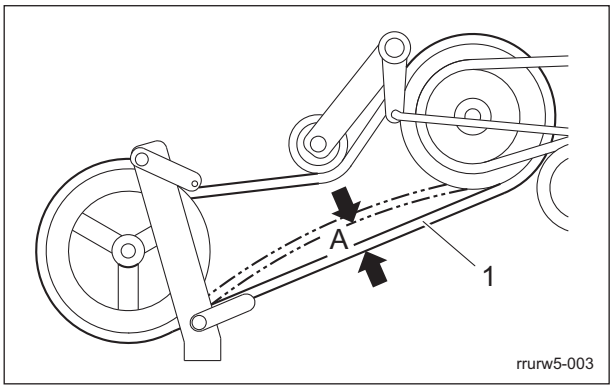
走行クラッチ用ベルト_002

1	走行クラッチロッド
2	ボルト
A	長くする
B	短くする

5. 走行クラッチロッドの長さの調整後は、再度ベルトの張り具合を確認してください。

リールクラッチ用ベルト

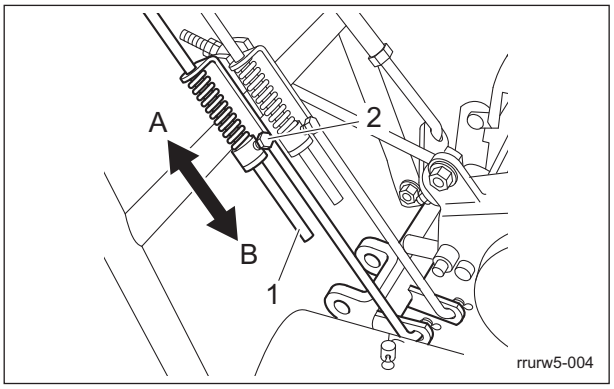
1. ベルトカバーを取り付けているボルトを 3 本緩めてください。
2. ベルトカバーを取り外してください。
3. リールクラッチレバーを「入」の位置にし、ベルトの張り具合を確認してください。
   ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央（イラストの矢印部）を指で軽く 25 N（2.5 kgf）で押さえて 10.0 mm（0.39 in）たわむ程度であれば適正です。



リールクラッチ用ベルト_001

1	ベルト
A	10.0 mm（0.39 in）

4. ベルトのたわみ量が適切でない場合は、リールクラッチロッドの伸縮で調整します。
   ボルトを緩め、リールクラッチロッドの長さを調整してください。
   ベルトのたわみ量が規定値より小さいときは、リールクラッチロッドの長さを長くします。
   ベルトのたわみ量が規定値より大きいときは、リールクラッチロッドの長さを短くします。



リールクラッチ用ベルト_002

1	リールクラッチロッド
2	ボルト
A	長くする
B	短くする

5. リールクラッチロッドの長さの調整後は、再度ベルトの張り具合を確認してください。

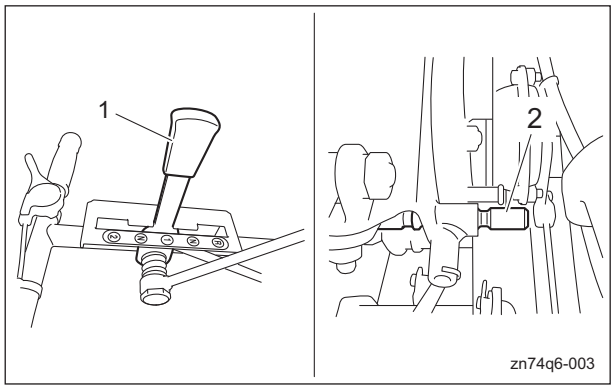
チェンジ調節ロッドの調整

⚠ 警告

ロッドの調整を行う際は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

チェンジレバーの位置とミッションの連結金の位置が一致するようにチェンジ調節ロッドの長さを調整してください。
参考：
ギヤの位置は、ミッションの連結金の位置で確認することができます。

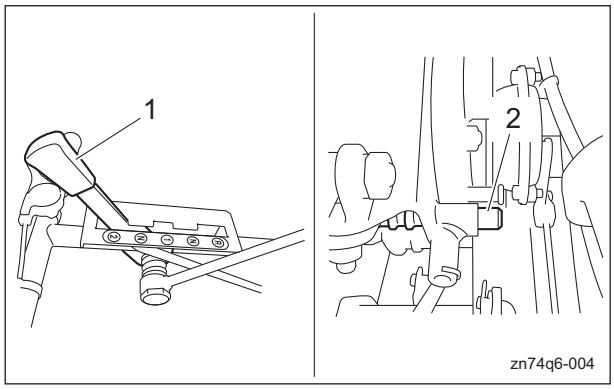
1 速：



チェンジ調節ロッドの調整_001

1	チェンジレバー
2	連結金

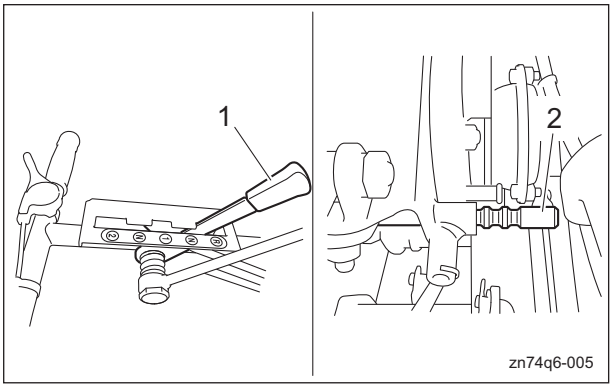
2 速：



チェンジ調節ロッドの調整_002

1	チェンジレバー
2	連結金

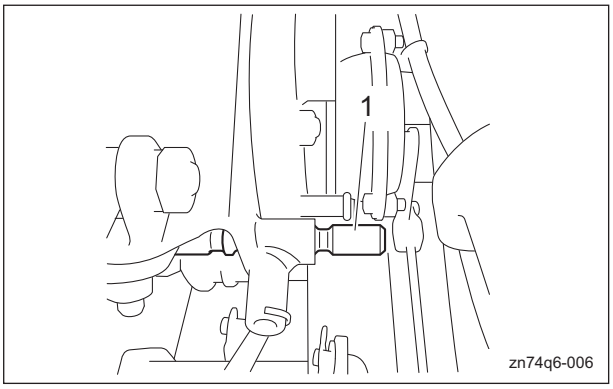
R（後進）：



チェンジ調節ロッドの調整_003

1	チェンジレバー
2	連結金

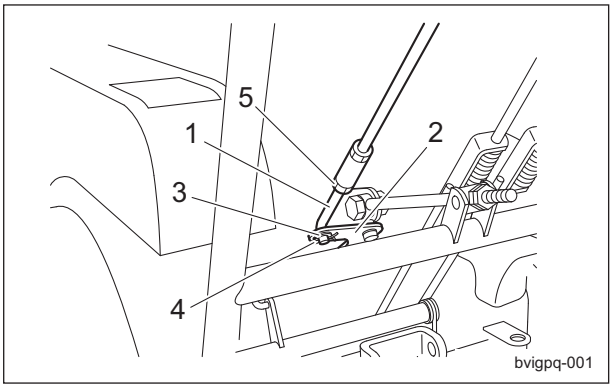
1. ミッションの連結金を「1 速」の位置にしてください。



チェンジ調節ロッドの調整_004

1	連結金

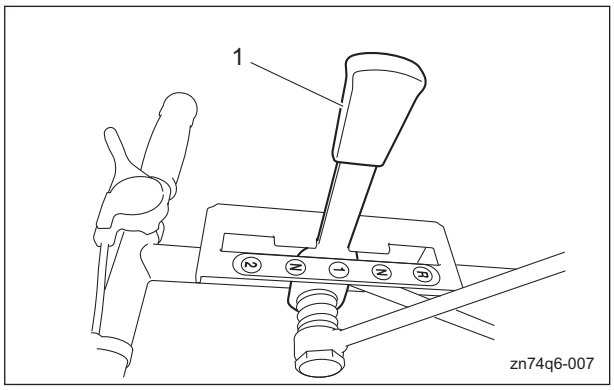
2. ロックナットを緩めてください。
3. スナップピンとワッシャーを取り外してください。



チェンジ調節ロッドの調整_005

1	チェンジ調節ロッド
2	チェンジアイドルレバー
3	ワッシャー
4	スナップピン
5	ロックナット

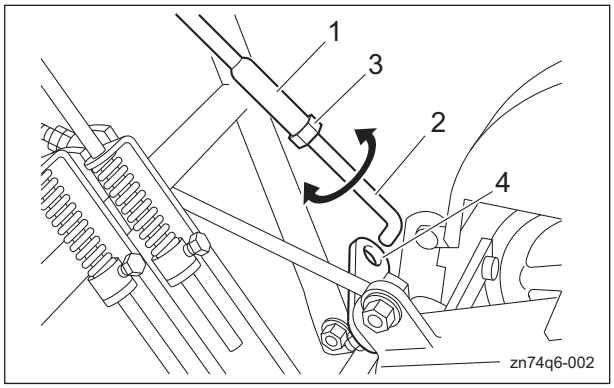
4. チェンジレバーを「1 速」の位置にしてください。



チェンジ調節ロッドの調整_006

1	チェンジレバー

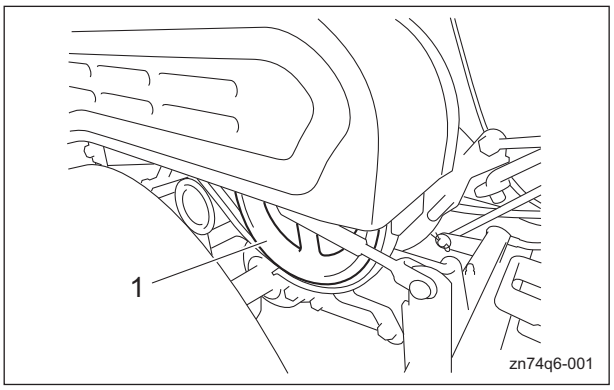
5. チェンジ調節ロッドを回し、チェンジアイドルレバーの穴に入る長さに調整してください。



チェンジ調節ロッドの調整_007

1	チェンジロッド
2	チェンジ調節ロッド
3	ロックナット
4	チェンジアイドルレバー

6. ロックナットを締め付けてください。
7. チェンジ調節ロッドをワッシャーとスナップピンで取り付けてください。
8. チェンジレバーの位置とミッションの連結金の位置が一致していることを確認してください。
9. ミッションプーリーをゆっくり手で回し、ギヤがかみ合うことを確認してください。



チェンジ調節ロッドの調整_008

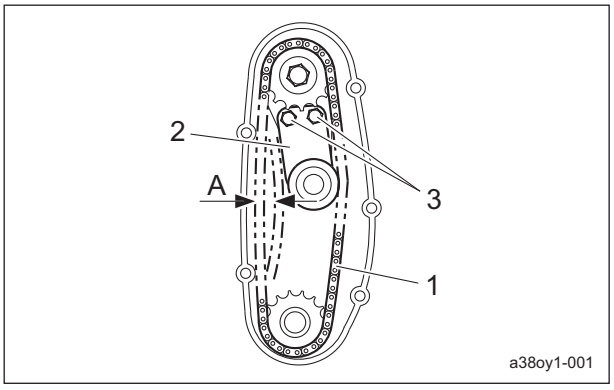
1	ミッションプーリー

チェーンの張り調整

⚠ 警告

チェーンの調整を行う際は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

1. チェーンカバーを取り付けているボルトを 5 本緩めてください。
2. チェーンカバーを取り外してください。
3. チェーンの張り具合を確認してください。
   チェーンの張りは、イラストの矢印部を指で軽く 25 N（2.5 kgf）で押さえて 10.0 mm（0.39 in）たわむ程度であれば適正です。
4. チェーンのたわみ量が適切でない場合は、チェーンの張り具合を調整します。
   チェーン張りアームを取り付けている 2 本のボルトを緩め、チェーン張りアームを動かして調整してください。



チェーンの張り調整_001

1	チェーン
2	チェーン張りアーム
3	ボルト
A	10.0 mm（0.39 in）

エアクリーナーの交換

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
   〔1〕エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
   〔2〕汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。
2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。
   「エアクリーナーの清掃」（Page 4-5）

エンジンオイルの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

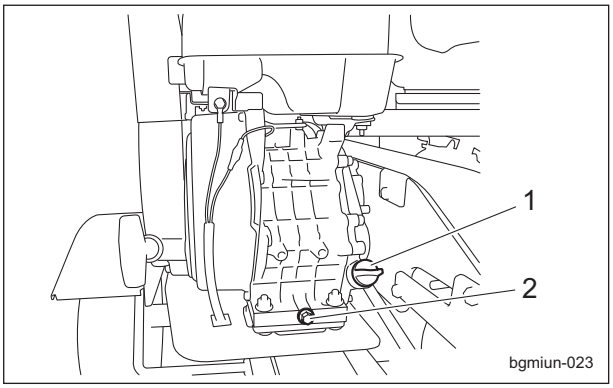
エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
2. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き取ってください。
3. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
4. オイルレベルゲージを取り外してください。
5. オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れてください。
   エンジンオイル量は、1.0 dm^3（1.0 L）です。
6. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの交換_001

1	オイルレベルゲージ（オイル注入口）
2	ドレンプラグ

7. オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。
8. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。
9. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

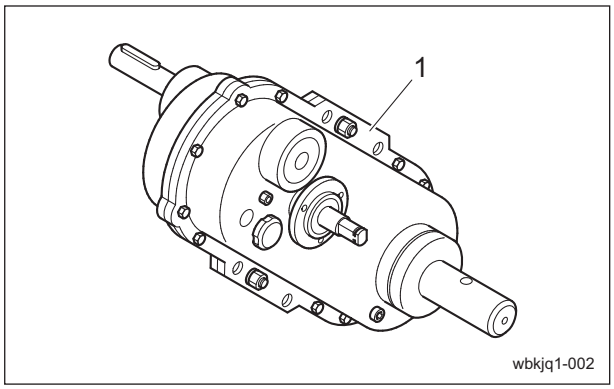
ミッショングリースの交換

重要

グリースは、指定のグリースを使用してください。

1. ミッショングリースは、ミッションを分解し、交換してください。
   使用するグリースは、以下のとおりです。

ミッションケース	シトラックス EP1 号	800 g
デフギヤ	エクセライト EP2 号	100 g



ミッショングリースの交換_001

1	ミッション

長期保管

長期保管について

- 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- 各注油箇所にグリース注入、塗布と注油をしてください。

BARONESS®

Quality on Demand

株式会社 共栄社

〒442-8530
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84-1221
FAX (0533) 84-1220

LM81A---UM--JPZ/18M-00-S.K